

LoRa-Private通信ソフトウェア

# SimpleMAC-std/std3・取り扱い説明書

LPWAサブギガ通信モジュール製品 RM-92A / RM-92AW / RM-92C / RM-92C1 / RM-92C2 対応



Ver3.1.3

# 改版履歴

更新日付	rev	内容	page	作成者
2025.4.10	3.0.0	RM-92Aシリーズ、RM-92Cシリーズ統合	新規作成	小林
2025.9.8	3.1.0	コンフィグレーション項目一覧	項目一部修正	小林
2025.6.18	3.1.1	UART出力フォーマットの修正	38~43	工藤
2025.9.9	3.1.2	pコマンド説明追加	32	小林聖子
2025.12.18	3.1.3	ATコマンドに総和時間読出しコマンド追加	48	小林
		サンプルコマンドによる設定例の誤記修正	51	小林

# 目次

## [1. はじめに](#)

## [2. SimpleMACstdの概要](#)

## [3. SimpleMAC92xシリーズの特長](#)

- 3.1 RM-92AとRM-92Cシリーズ
- 3.2 RM-92CとRM-92C2の性能差

## [4. SimpleMAC92xシリーズの基本動作](#)

- 4.1 電源投入からシステムスタートまでの流れ
- 4.2 システムの自動スタート方法～DipSwによる自動スタート（Ver4.2の開発ボードをご使用の場合）
- 4.3 システムの自動スタート方法～キー入力による自動スタート
- 4.4 システムの自動スタート方法詳細

## [5. 変調方式の選択](#)

## [6. コンフィグレーション項目一覧](#)

- 6.1 LoRaモード基本メニュー
- 6.2 LoRaモード コンフィグレーション
- 6.3 FSKモード基本メニュー
- 6.4 FSKモード コンフィグレーション

## [7. コンフィグレーション項目・詳細](#)

- 7.1 使用CH番号の設定コマンド ('a' コマンド)
- 7.2 ネットワークアドレス、PANアドレスの設定コマンド ('b' 'c' 'd' コマンド)
- 7.3 ユニットモード設定コマンド ('e' コマンド)
- 7.4 ルーティングモード設定コマンド ('f' コマンド)
- 7.5 無線詳細設定コマンド ('g' コマンド) 【LoRaモード】
  - 7.5.1 RM-92A、RM-92Cの場合
  - 7.5.2 RM-92C2の場合
- 7.6 無線詳細設定コマンド ('g' コマンド) 【FSK/GFSKモード】
- 7.7 ACK設定コマンド ('h' コマンド)
- 7.8 送信モード設定コマンド ('i' コマンド)
- 7.9 タイマースリープモード設定コマンド ('j' コマンド)
- 7.10 UART設定コマンド ('k' コマンド)
- 7.11 受信パケット表示モード設定コマンド ('l' コマンド)
- 7.12 キアリアンス設定コマンド ('m' コマンド)
- 7.13 AES設定コマンド ('n' コマンド)
- 7.14 通信終和時間管理コマンド ('o' コマンド)
- 7.15 低レベルノイズフィルタ機能コマンド ('q' コマンド)
- 7.16 デバッグメッセージ設定コマンド ('t' コマンド)
- 7.17 CPU製造コード読み出しコマンド ('u' コマンド)
- 7.18 E2ROM設定コマンド ('y' 'x' 'z' コマンド)
- 7.19 ブロードキャスト再発報コマンド ('w' コマンド)
- 7.20 自動中継接続フィルタ設定コマンド ("r"コマンド)

## [7.21 デバイスタイプの読み出しコマンド](#)

## [7.22 トランシーバーリセット機能の有効/無効設定](#)

(“!”コマンド) ※SimpleMAC92X\_ver2.10.1以降に対応

(‘&’ コマンド) ※RM-92C1/92C2未対応

## [8. フレームフォーマット（全モード共通）](#)

- 8.1 エアフォーマット
  - 8.1.1 標準エアフォーマット（拡張PAN不使用時）
  - 8.1.2 拡張PANエアフォーマット ※SimpleMAC\_Ver2.0以降に対応
- 8.2 UART入力フォーマット（フレームモード）
- 8.3 UART出力フォーマット・出荷時設定の場合
- 8.4 UART出力フォーマット・送信元アドレス出力設定の場合
- 8.5 UART出力フォーマット・送信元アドレス+中継アドレス出力設定の場合

## [9. ATコマンド機能（AT-command-mode時）](#)

- 9.1 コマンドフォーマット ※SimpleMAC92X\_ver2.0以降に対応
- 9.2 コマンド種別一覧表 ※同上

## [10. サンプルプログラムの設定例](#)

- 10.1 コンフィグレーション設定例 ~ 単純なシリアルデータの送受信
- 10.2 コンフィグレーション設定例 ~ 単純なシリアルデータの 1:Nによる構築
- 10.3 コンフィグレーション設定例 ~ 1:Nによる子機指定通信
- 10.4 コンフィグレーション設定例 ~ 経路指定通信を含む 1:Nによる子機指定通信
- 10.5 コンフィグレーション設定例 ~ AutoRoutingによる送信設定
- 10.6 中継試験用開発キット(RM-92X-SDK-std3)の出荷時設定を利用した中継機能の確認方法

## [11. SimpleMACステータスコード一覧](#)

- 11.1 データ送信リターンステータス一覧表(デバッグ出力ON:TEXT時)
- 11.2 データ送信リターンステータス一覧表(デバッグ出力ON:CODE時)
- 11.3 ATコマンドモード時の戻り値一覧表

## [12. SimpleMAC自動中継機能について](#)

- 12.1 概要
- 12.2 自動中継接続の設定
- 12.3 自動中継接続の仕組み
- 12.4 自動中継接続通信イメージ
- 12.5 自動中継による下り通信イメージ
- 12.6 自動中継接続概念図
- 12.7 自動中継接続概念図・子機①から親機への接続要求
- 12.8 自動中継接続概念図・子機②の電源ONから親機への接続要求
- 12.9 自動中継接続概念図・子機②の電源ON
- 12.10 自動中継接続概念図・子機③のネットワーク参加完了
- 12.11 自動中継接続概念図・子機③の電源ON
- 12.12 自動中継接続概念図・子機③のネットワーク参加完了

## [13. 自動起動時の出力ダンプメッセージ詳細説明](#)

## [14. データ送信可能サイズ一覧](#)

# 1.はじめに

本書は、弊社が独自開発したLoRa・FSK・GFSKの変調方式に対応した通信プロトコルスタック＜SimpleMAC92Xシリーズ＞の取り扱い説明書になります。

SimpleMAC92Xシリーズは、弊社のLPWAサブギガモジュール製品すべてに標準搭載されているため、お客様の希望に応じた変調方式の変更が可能となっておりますが、変調方式や対応モジュール製品ごとに特性が異なります。

本書では、SimpleMAC92Xシリーズの特長・機能、基本動作、設定例等について取り上げ、説明していきます。

なお、SimpleMACソフトウェアにつきましては、開発キットを購入していただいた場合、RFに関する一部のソースコードはライブラリ化しておりますが、基本的には全ソースを公開しています。

ソースコードはサンプルとしてご使用いただくことを前提としたものであり、公開している部分に関する動作保証はしておりません。

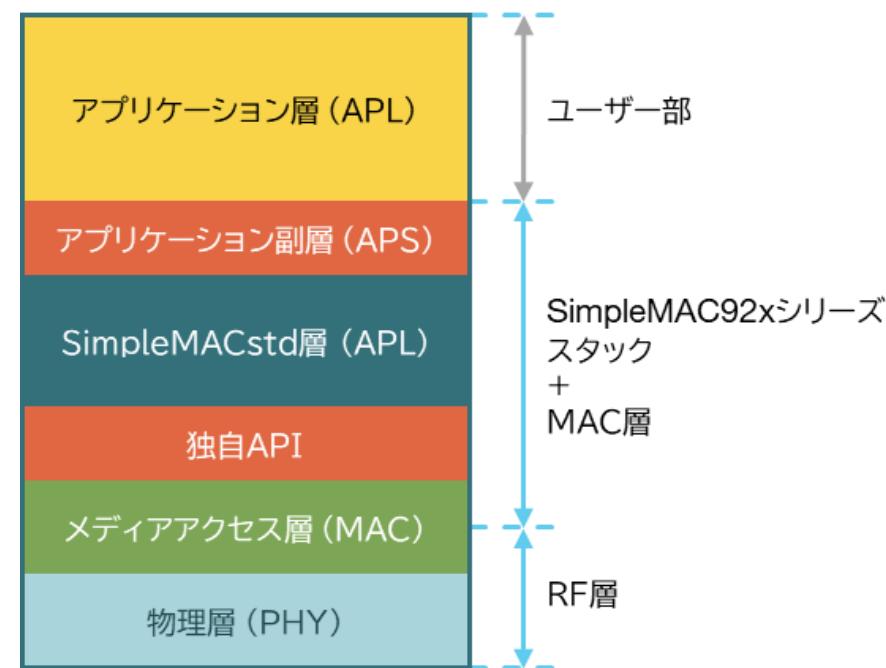
ご了承のうえでご使用いただきますようお願いいたします。

## 2. SimpleMAC92Xシリーズの概要

SimpleMAC92xシリーズは、弊社の独自開発プロコルスタックです。

外部にホストマイコン、又はPCなどから送受信するデータをUARTでI/Fすることを前提としていますが、RM-92A 及び RM-92C内蔵のA/DやSPIなどからのデータを受信させて、スタンドアロンで送信することも可能です。

図1 基本モデル



# 3. SimpleMAC92Xシリーズの特長

## 3.1 RM-92AとRM-92Cシリーズ

SimpleMAC92Xシリーズの基本的な動作は、RM-92A / 92CシリーズのUARTデバイスを使用して、外部のホストマイコン 又は、パソコンと  
相互通信することを前提としています。

ソースコードはRF部の一部以外は原則公開しておりますので、ソフトウェアを独自に改造していただくことにより、RM-92A / 92Cシリーズに内蔵される  
各種コントローラ（A/D、SPI、I2C、UARTCなど）を利用した無線システムの開発も可能です。

RM-92AとRM-92Cシリーズは、通信距離の性能が異なり、

RM-92AをベースにPA(パワーアンプ)を搭載したハイパワーモジュールがRM-92Cシリーズになります。

機能	RM-92A	RM-92Cシリーズ
LoRa変調モード	長距離通信用	○
LoRa変調SF12モード	超長距離通信用	○
FSK変調モード	高速通信用	○
GFSK変調モード	高速通信用	○
AES暗号化機能		○
自動ルーティング機能	○	○
スリープ機能	○	○
送信パワー20mW(13dBm)以上 ※MAX250mW(24dBm)	×	○

RM-92A・92Cの機能比較

### LoRa変調モード

通信速度は遅いですが、受信感度に優れ長距離通信に向いています。

### FSK / GFSK変調モード

通信速度が最大300Kbpsまで設定が可能です。  
通信距離が2km未満で比較的リアルタイム性が必要な高速  
通信に適しています。

# 3.SimpleMAC92Xシリーズの特長

## 3.2 RM-92CとRM-92C2の性能差

RM-92C2は、電波暗室内での通信や登録実験局免許を取得することで  
916.0MHz～928.0MHzの周波数設定と帯域を狭くして、高感度に受信感度設定が可能になります。

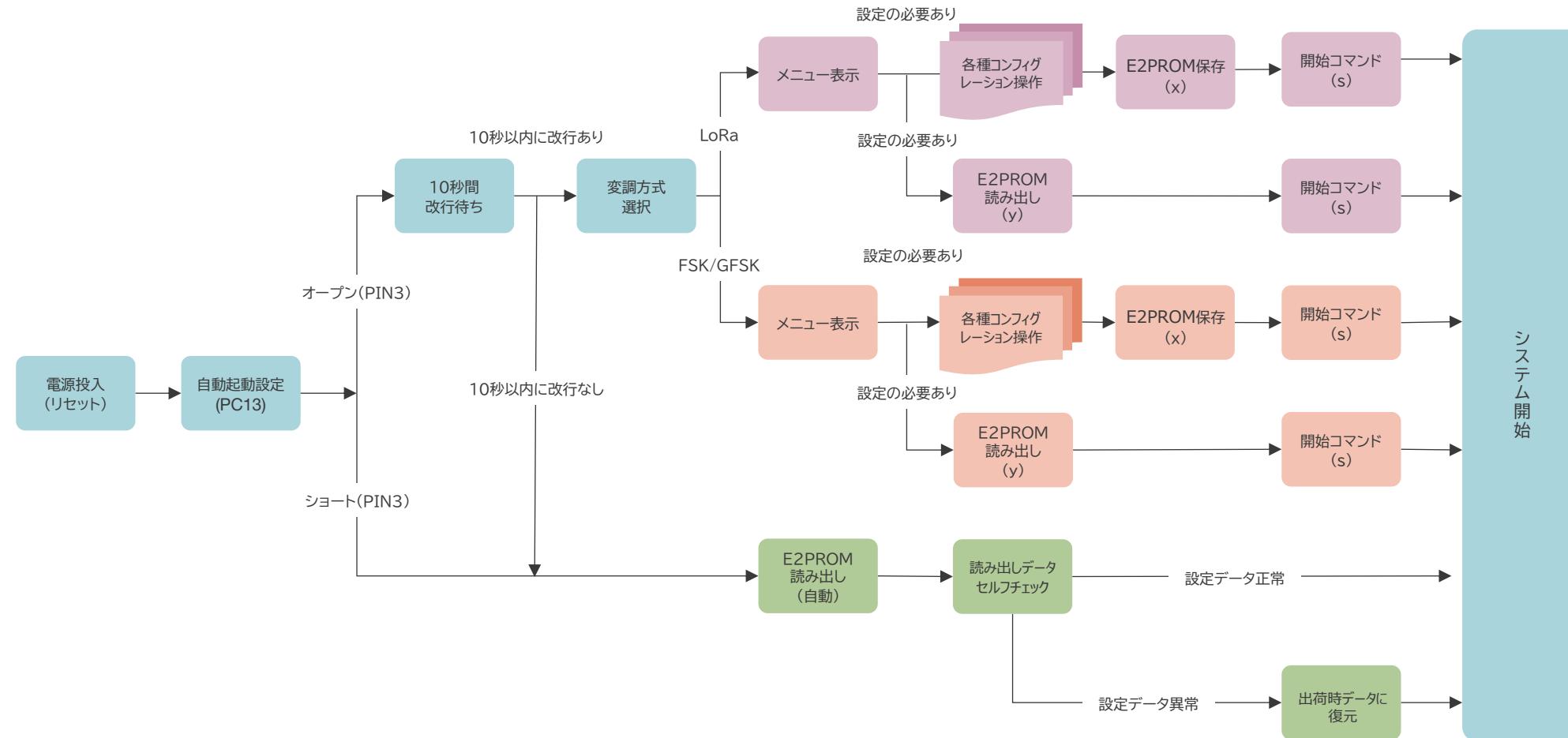
RM-92Cとの性能差は以下の通りです。

RM-92C・92C2の機能比較

機能	国内で設定可能な範囲	RM-92C	RM-92C2
設定可能な周波数	920.6MHz～923.4MHz	920.6MHz～928.0MHz	916.0MHz～928.0MHz
設定可能な帯域幅	125KHz / 250KHz / 500KHz	125KHz / 250KHz / 500KHz	7.8KHz / 10.4KHz / 15.6KHz 20.8KHz / 31.2KHz / 41.6KHz 62.5KHz / 125KHz / 250KHz / 500KHz
設定可能な拡散率	SF6 / SF7 / SF8 / SF9 / SF10 / SF11 / SF12	同左	同左
最小受信感度	-137dBm	-137dBm	-148dBm
最大送信パワー	24dBm (250mW)	同左	同左

# 4. SimpleMAC92Xシリーズの基本動作

## 4.1 電源投入からシステムスタートまでの流れ



# 4. SimpleMAC92Xシリーズの基本動作

## 4.2 システムの自動スタート方法～DipSwによる自動スタート（Ver4.2、Ver4.4 の開発ボードをご使用の場合）

電源投入時、自動的にE2PROMの内容を読み出してスタートさせることができます。

自動スタートさせる場合は、S1のDip SWの1番をONにしてください。

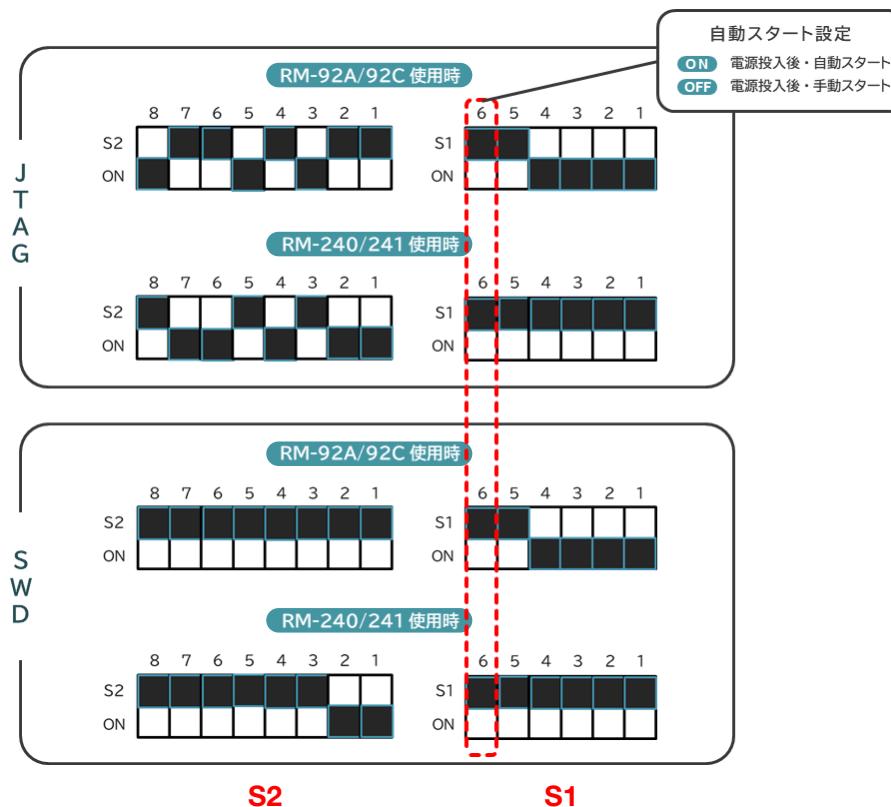
※ボードのバージョンにより自動スタートの方法は異なります。詳しくは開発環境構築ガイドをご確認下さい。



ver4.4 EV  
ボード



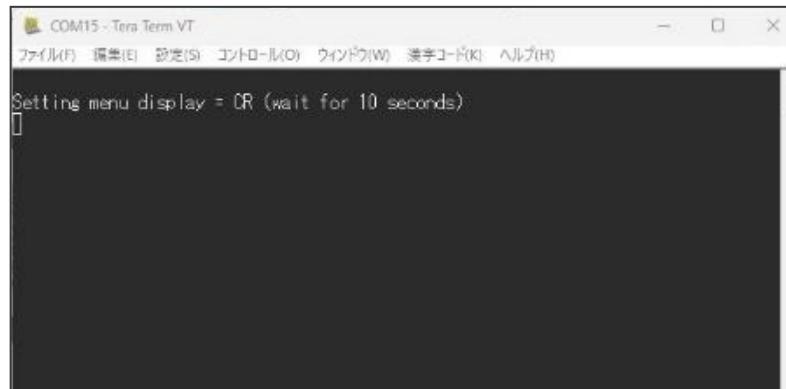
ver4.2 EV  
ボード



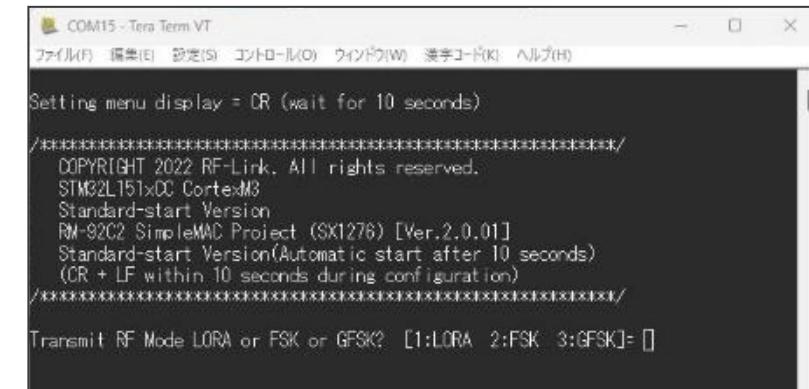
# 4.SimpleMAC92Xシリーズの基本動作

## 4.3 システムの自動スタート方法～キー入力による自動スタート

RM-92A/92Cシリーズをお客様のボードや弊社製品のRM-92X\_USB等に搭載した場合、DipSwが無い場合は、電源投入後に10秒以内にUARTから改行(CR+LF)を入力することで設定メニューを開くことが出来ます。電源投入後、10秒間 CR+LF入力が無い場合、RM-92A/92Cシリーズの内部FlashROMに保存されている設定情報を自動的に読み出してシステムがスタートします。



上図は、DipSw設定による自動起動がOFF 又は、RM-92X\_USB等をPCに接続した状態で起動した場合にPCとシリアル接続した際に表示される画面です。



上図は10秒以内にPCの改行キーを押した場合に表示される画面です。

# 4.SimpleMAC92Xシリーズの基本動作

## 4.4 システムの自動スタート方法詳細

RM-92A/92Cシリーズでは、事前に内部フラッシュメモリに設定した内容で自動スタートをさせることができます。

### 使用方法

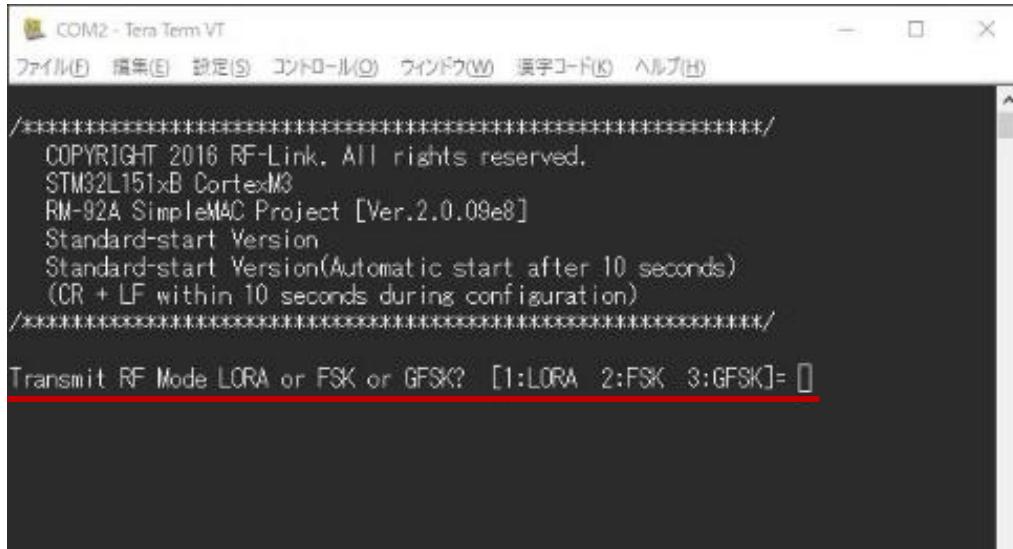
4.2項、4.3項 のように、DipSW又はジャンパ設定により、自動スタート設定を有効にします。

### 手順例

- ① Ver4.1以上の開発ボードの場合は、S1の1番をONにします。(Ver4.0未満の場合：PIN1とPIN3をオープンの状態にします)
- ② PCとRM-24X/92X\_EVをUSBケーブルで接続します。
- ③ PCでteratermなどのシリアルターミナルソフトウェアを起動します。**※シリアル設定：通信速度/115200 data/8 stop-bit/1 Parity/なし フロー/なし**
- ④ 基板のリセットボタンを押します。
- ⑤ オープニングメニューが表示されます。(6.1項、6.3項参照)
- ⑥ 各種設定パラメータを変更します。
- ⑦ Xコマンドで設定情報を保存します。
- ⑧ Ver4.1以上の開発ボードの場合は、S1の1番をOFFにします。(Ver4.0未満の場合：PIN1とPIN3をショートの状態にします)
- ⑨ 基板のリセットボタンを押下するか、電源の抜き差しを行います。
- ⑩ 上記⑥の内容で設定した内容で自動スタートします。

# 5.変調方式の選択

リセット後、最初に変調方式を選択します。



COM2 - Tera Term VT

ファイル(F) フォルダ(O) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) 漢字コード(K) ヘルプ(H)

```
*****  
COPYRIGHT 2016 RF-Link. All rights reserved.  
STM32L151xB CortexM3  
RM-92A SimpleMAC Project [Ver.2.0.09e8]  
Standard-start Version  
Standard-start Version(Automatic start after 10 seconds)  
(CR + LF within 10 seconds during configuration)  
*****
```

Transmit RF Mode LORA or FSK or GFSK? [1:LORA 2:FSK 3:GFSK]=

Teraterm キャプチャ画面

## FSKモード

無線の通信速度を1.2Kbps～300Kbpsの範囲で設定することができます。リアルタイム性を生かした高速無線通信に適していますが、通信距離がLoRaモードに比べて短くなります。

## GFSKモード

基本的にはFSKモードと同じ仕様で使用することができます。FSKモードよりもbitエラーの発生率が低く安定しますが、FSKと同一のビットレート設定をした場合に実行スループット性能が低下します。

## LoRaモード

無線の通信速度をSF6～SF12モードとBWモードとの組み合わせにより、約229bps～37.5Kbpsの範囲で設定を行うことができます。長距離通信に適していますが、通信速度が遅くなります。

# 6.コンフィグレーション項目一覧

## 6.1 LoRaモード基本メニュー

LoRaモードを選択すると、右図の基本メニューが表示され、  
a～z のコマンドにより各設定パラメータの編集を行うことができます。

何も編集しない場合は、デフォルト値で起動します。

[?] を入力することで、設定状況を確認することができます。

Transmit RF Mode LORA or FSK or GFSK? [1:LORA 2:FSK 3:GFSK]: 1

Input Command Choice >>>

---

\* RM92A SimpleMACstd Command List [LORA Mode] \*

---

[a] : Channel No Set	[24 - 61]	[ ]
[b] : PAN Address Enable	[0:Not Use      1:Use]	[ ]
[c] : SRC-Address Set	[1] - 65534	[ ]
[d] : DST-Address Set	[1] - 65535	[ ]
[e] : Unit Mode Set	[0:Parent      1:child]	[ ]
[f] : Routing Mode	[0:Fixation      1:AutoRouting [2:Nonrouting]	[ ]
[g] : RF Settings		
	[1:TX-Power Set      2:Bandwidth Set [3:Factor(SF) Set      4:Error Coding Set [5:Optimize Set]	[ ]
[h] : Ack Request Set	[0:Not Use      1:Use]	[ ]
[i] : Data Transfer Mode	[0:Discharge      1:Frame      2:TimerSend [7:Cont inuous modulated transmission [8:Cont inuous unmodulated transmission [9:AT-Command Mode]	[ ]
[j] : Sleep Mode	[0:Not Use      1:Use]	[ ]
[k] : UART BaudRate Set	[0:4800 1:9600 2:14400 3:19200 4:38400 [5:57600 6:115200 7:230400 8:460800 9:921600]	[ ]
[l] : Recv Packet Output Set	[1:RSSI Output Set [2:Transfer(SRC) Address Output Set [3:ORLF OutPut [4:Recv Data Length Output Set [5:Recv Data Output Code Set]	[ ]
[m] : Carrier Sense Set	[0:Not Use      1:Use]	[ ]
[n] : RF-Data AES KEY	[0:Not Use      1:Use]	[ ]
[o] : RTC Clock Source	[0:LST      1:LSE]	[ ]
[p] : Settings related to ARB (Test Only) -----		
	[1:Transmit-Time-Total Count Set [2:Maximun sendable length Auto Set]	[ ]
[q] : Low-level noise filter function	[0:Not Use      1:Use]	[ ]
[r] : Connect Recv RSSI Threshold Set. [-137 to 0]		
[s] : System Start		
[t] : Debug Print Output [0:OFF      1:ON(TEXT)      2:ON(CODE)]		[ ]
[u] : Unique Device ID Read		
[v] : Software Reset		
[w] : BroadCast Data Hopping Mode	[0:Unconditional      1:Conditional [2:No Hopping]	[ ]
[x] : Setting Data EEPROM Save		
[y] : Setting Data EEPROM Read		
[z] : EEPROM Configuration Data Default Set (Reset it)		
[z] : State indication		
Help : Return		

図1 LoRaモード基本メニュー

図2 LoRaモードのデフォルト値（？で表示）

# 6.コンフィグレーション項目一覧

## 6.2 LoRaモード :コンフィグレーション “a” ~ “n” まで

コマンド	設定項目	出荷時設定	設定範囲
“a”	使用する無線CH番号の設定	24	RM-92A・RM-92C : 24(920.6MHz)~61(928.0MHz) RM-92C2 : 1(916.0MHz)~61(928.0MHz)
“b”	PANネットワークアドレスの設定	0x1234	1~65534
“c”	自局アドレスの設定	0x0001	0~65534
“d”	宛先アドレスの設定	0x0000	0~65534 ※dコマンドで指定した宛先アドレスは、Dischargeモードで送信する時に使用されます。
“e”	ユニットモードの設定	Child	Child / Parent
“f”	ルーティング通信の設定	Non-Routing	Fixation / Auto-Routing / Non-Routing
“g”	RFの詳細設定	TX-Power 13dBm BW 125KHz SF SF10	7章参照
“h”	ACKモードの設定	Disable	Disable / Enable
“i”	データ送信モードの設定	Discharge	Discharge / Frame / Time Send / Output ambient noise / Continuous modulate transmission/Continuous unmodulated transmission / AT-Command Mode ※AT-Command Modeは、SimpleMAC92X Ver2.0以降に対応 ※Output ambient noiseは、SimpleMAC92X ver2.1.01以降に対応
“j”	スリープモードの設定	Not Use	Not Use / Use
“k”	UART通信の設定	115200bps	4800/9600/14400/19200/38400/57600/115200/230400/460800/921600
“l”	受信パケット出力設定	RSSI Enable SRC-Address Disable	7章参照
“m”	キャリアセンス設定	Use	7章参照
“n”	AES暗号化機能の設定	Not Use	7章参照

Ver2.0以下のバージョンでは、KコマンドのUART通信速度の設定は、XコマンドでFlashROMには保存されません。ご注意下さい。

# 6.コンフィグレーション項目一覧

## 6.2 LoRaモード :コンフィグレーション “o” ~ “?” まで

コマンド	設定項目	出荷時設定	設定範囲
“o”	内部RTCクロックソースの設定	LSE	LSI / LSE
“p”	通信総和時間管理の設定	Use	Use / Not Use
“q”	低レベルノイズフィルタカット設定	Not Use	Use / Not Use
“r”	自動接続時のRSSI閾値設定	-137dBm	SimpleMAC92X_Ver2.0以降に対応
“s”	システムのスタート	-	
“t”	デバッグメッセージ出力の切り替え	テキストメッセージ出力	テキストメッセージ出力 / ステータスコード出力 / 出力無し ※SimpleMAC92X_Ver2.0以降に対応
“u”	CPUユニークコードの読み出し	-	-
“v”	ソフトウェアリセットの実行	-	-
“w”	ブロードキャストマルチホップ機能	Unconditional	Unconditional / Conditional / Not Use
“x”	設定情報の内部E2PROMへの保存	-	-
“y”	内部E2PROMから設定情報の読み出し	-	-
“z”	内部E2PROMの初期化	-	-
“!”	モジュールタイプの読み出し	-	RM-92A:92A RM-92C:92C RM-92C2 ※SimpleMAC92X 2.1.01以降に対応
“&”	トランシーバーリセット機能の設定	OFF	0:OFF 1:ON ※SimpleMAC92X.2.1.06以降に対応
“?”	現在状態の表示	-	-

# 6.コンフィグレーション項目一覧

## 6.3 FSK/GFSKモード基本メニュー

FSKモードを選択すると下記の基本メニューが表示され、  
a～z のコマンドにより各設定パラメータを編集を行うことが出来ます。

何も編集しない場合は、デフォルト値で起動します。  
[?] を入力することで、設定状況を確認することが出来ます。

COM2 - Tera Term VT

ファイル(F) フォルダ(B) 設定(S) コントロール(O) ウィンドウ(W) 漢字コード(I) ヘルプ(H)

\*\*\*\*\*RM92A SimpleMCstd Command List [FSK Mode]\*\*\*\*\*

Transmit RF Mode LORA or FSK or GFSK? [1:LORA 2:FSK 3:GFSK]= 2

Input Command Choice >>>

---

```
*****RM92A SimpleMCstd Command List [FSK Mode]*****
```

---

[a] : Channel No Set [24 ~ 61] ]

[b] : PAN Address Enable [0:Not Use 1:Use ]

[c] : SRC-Address Set [1 ~ 85534 ]

[d] : DST-Address Set [1 ~ 85535 ]

[e] : Unit Mode Set [0:Parent 1:Child ]

[f] : Routing Mode [0:Fixation 1:AutoRouting ]

[g] : No Routing ]

---

[a] : RF Settings-----

[1:TX-Power Set 2:RF Transmit BitRate Set]  
[3:FSK Whitening Set]

---

[h] : Ack Request Set [0:Not Use 1:Use ]

[i] : Data Transfer Mode [0:Discharge 1:frame 2:TimerSend ]  
[7:Cont inuous modulated transmission ]  
[8:Cont inuous unmodulated transmission ]  
[9:AT-Command Mode ]

---

[j] : Sleep Mode [0:Not Use 1:Use ]

[k] : UART BaudRate Set [0:4800 1:9600 2:14400 3:19200 4:38400 ]  
[5:57600 6:115200 7:230400 8:460800 9:921600 ]

---

[l] : Recv Packet Output Set-----

[1:RSSI Output Set  
[2:Transfer(SRC) Address Output Set  
[3:CRFLF OutPut  
[4:Recv Data Length Output Set  
[5:Recv Data Output Code Set]

---

[m] : Carrier Sense Set [0:Not Use 1:Use ]

[n] : RF-Data AES KEY [0:Not Use 1:Use ]

[o] : RTC Clock Source [0:LSI 1:SE ]

---

[p] : Settings related to ARIB (Test Only) -----

[1:Transmit-Time>Total Count Set  
[2:Maximum sendable length Auto Set]

---

[q] : Low-level noise filter function [0:Not Use 1:Use ]

---

[r] : Connect Recv RSSI Threshold Set. [-137 to 0]

[s] : System Start

[t] : Debug Print Output [0:OFF 1:ON(TEXT) 2:ON(CODE) ]

[u] : Unique Device ID Read

[v] : Software Reset

[w] : Broadcast Data Hopping Mode [0:Unconditional 1:Conditional ]

[x] : Setting Data EEPROM Save

[y] : Setting Data EEPROM Read

[z] : EEPROM Configuration Data Default Set (Reset it)

[?]: State indication

Help : Return

図1 FSKモード基本メニュー

図2 FSKモードのデフォルト値

# 6.コンフィグレーション項目一覧

## 6.4 FSK/GFSKモード :コンフィグレーション “a” ~ “n” まで

コマンド	設定項目	出荷時設定	設定範囲
“a”	使用する無線CH番号の設定	24	RM-92A・RM-92C、RM-92C1 :24(920.6MHz)~61(928.0MHz) RM-92C2 :01(916.0MHz)~61(928.0MHz)
“b”	PANネットワークアドレスの設定	0x1234	1~65534
“c”	自局アドレスの設定	0x0001	0~65534
“d”	宛先アドレスの設定	0x0000	0~65534 ※dコマンドで指定した宛先アドレスは、Dischargeモードで送信する時に使用されます。
“e”	ユニットモードの設定	Child	Child / Parent
“f”	ルーティング通信の設定	Non-Routing	Fixation / Auto-Routing / Non-Routing
“g”	RFの詳細設定	TX-Power 13dBm TR Bps 5000Kbps Whitening Not Use	7章参照
“h”	ACKモードの設定	Disable	Disable / Enable
“i”	データ送信モードの設定	Discharge	Discharge / Frame / Time Send / Output ambient noise / Continuous modulated transmission/Continuous unmodulated transmission / AT-Command Mode ※AT-Command Modelは、SimpleMAC92X Ver2.0以降に対応 ※Output ambient noiseは、SimpleMAC92X ver2.1.01以降に対応
“j”	スリープモードの設定	Not Use	Not Use / Use
“k”	UART通信の設定	115200bps	4800/9600/14400/19200/38400/57600/115200/230400/460800/921600
“l”	受信パケット出力設定	RSSI Enable SRC-Address Disable	7章参照
“m”	キャリアセンス設定	Use	7章参照
“n”	AES暗号化機能の設定	Not Use	7章参照

Ver2.0以下のバージョンでは、KコマンドのUART通信速度の設定は、XコマンドでFlashROMには保存されません。ご注意下さい。

# 6.コンフィグレーション項目一覧

## 6.4 FSK/GFSKモード :コンフィグレーション “o” ~ “?” まで

コマンド	設定項目	出荷時設定	設定範囲
“o”	内部RTCクロックソースの設定	LSE	LSI / LSE
“p”	通信総和時間管理の設定	Use	Use / Not Use
“q”	低レベルノイズフィルタカット設定	Not Use	Use / Not Use
“r”	自動接続時のRSSI閾値設定	-137dBm	SimpleMAC92X_Ver2.0以降に対応
“s”	システムのスタート	-	
“t”	デバッグメッセージ出力の切り替え	テキストメッセージ出力	テキストメッセージ出力 / ステータスコード出力 / 出力無し ※SimpleMAC92X_Ver2.0以降に対応
“u”	CPUユニークコードの読み出し	-	-
“v”	ソフトウェアリセットの実行	-	-
“w”	ブロードキャストマルチホップ機能	Unconditional	Unconditional / Conditional / Not Use
“x”	設定情報の内部E2PROMへの保存	-	-
“y”	内部E2PROMから設定情報の読み出し	-	-
“z”	内部E2PROMの初期化	-	-
“!”	モジュールタイプの読み出し	-	RM-92A:92A RM-92C:92C RM-92C2 ※SimpleMAC92X 2.10.01以降に対応
“&”	トランシーバーリセット機能の設定	OFF	0:OFF 1:ON ※RM-92C2は未対応
“?”	現在状態の表示	-	-

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.1 使用CH番号の設定コマンド（'a' コマンド）

日本国内の920MHz帯のチャンネル割り当ては以下の表の通りです。

RM-92C2は、250mW以下の陸上移動無線局として日本国内(海上では陸から3海里以内)において、CH24～CH38の範囲で使用することができます。

CH1～CH23、CH39以上を使用される場合は、電波暗室での使用又は、登録実験局免許を取得してご使用下さい。

コマンド	デフォルト値	説明
“a” コマンド	24	<p>中心周波数の設定を行います。</p> <p>01~61 を指定します。</p>

## 【注意】

上記の表は帯域設定(BW設定)を125KHzに設定した場合のCHに対する中心周波数の関係を表しています。

帯域設定を250KHzにした場合:

選択したCHに対して、+1のCHを合わせた中心を中心周波数にします。選択可能な最終CHは60になります。(RM-92Cシリーズの場合は、CH37です)

(例)CH25を選択した場合 → CH25+CH26の中心点  
920.9MHzをセンターにして前後125KHzを占有して無線送信

帯域設定を500KHzにした場合:

選択したCH1に対して、+1と+2のCHを合わた中心を中心周波数にします。選択可能な最終CHは59になります。(RM-92Cシリーズの場合は、CH36です)

(例)CH25を選択した場合 → CH25+CH26+CH27の中心点  
921.0MHzを中心として前後250KHzを占有して無線送信

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.2 ネットワークアドレス、PAN(Personal Area Network)アドレスの設定コマンド ('b' 'c' 'd' コマンド)

コマンド	デフォルト値	説明
“b” コマンド	0x1234	<p><u>自ノードが参加するPANアドレスを設定します。</u></p> <p>PANアドレスとは、同一の無線CH内を更に分けて管理したい場合に使用します。 PANアドレスは、標準PANと拡張PANの2種類があり、それぞれ下記のように指定することができます。</p> <p>標準PANアドレス 0x0001～0xFFFF の範囲 拡張PANアドレス 0x?? で任意の12byte</p> <p>拡張PANは、任意に指定することも可能な他、ユニークコードで拡張PANを設定したい場合は、 uコマンドでCPUユニークコードを読み出して手動設定することも可能です。 ※拡張PANは、Ver2.0以降に対応しています</p>
“c” コマンド	0x0001	<p><u>自ノードのネットワークアドレスを設定します。</u></p> <p>1つのPANアドレス内に、0x0000～0xFFFF の範囲で設定が可能です。</p>
“d” コマンド	0x0000	<p><u>送信先ノードのアドレスを設定します。</u>(一般的には親機のアドレスを設定しますが、他の子機アドレス指定も可能です)</p> <p>1つのPANアドレス内に、0x0000～0xFFFF の範囲で設定が可能です。</p> <p>0xFFFF を設定すると ブロードキャストアドレスとなり、全ノードへの一斉送信を行うことが出来ます。</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.3 ユニットモード設定コマンド（‘e’ コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“e” コマンド	Child	<p><u>モジュールの親子設定を行います。</u></p> <p>通常1台のユニットを親機 (Parent)として設定し、他の複数ユニットを子機(Child)として設定します。</p> <p>0 : Parent 1 : Child</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.4 ルーティングモード設定コマンド（‘f’ コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“f” コマンド	Non-Routing	<p>親子間の接続モードの設定を行います。</p> <p>Fixaction : 通信経路を指定して通信するモード AutoRouting : 自動的に通信経路を接続するモード NonRouting : スターライブ型ネットワークで接続するモード</p> <p><b>0 : Fixaction</b></p> <p>0 : 中継なし 1~3 : 中継数(ホップ数)の指定 最大3ノードまで</p> <p>(例)3を指定した場合 First-Root-Address : 2 Second-Root-Address : 3 Third-Root-Address : 4</p> <p>下記のように送信されます。 自ノード → 0x002 → 0x003 → 0x004 → 宛先ノード</p> <p><b>1 : AutoRouting</b></p> <p><b>2 : NonRouting</b></p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.5 無線詳細設定コマンド（'g' コマンド）【LoRaモード】 7.5.1 RM-92A、RM-92Cの場合

コマンド	デフォルト値	説明
“g” コマンド	-	<p><u>送信パワー、総和時間処理の使用/不使用、送信インターバル時間の設定を行います。</u></p> <p>1 : TX-Power Set (送信出力)</p> <p>RM-92A 0 : 0dBm (1mW) ~ 13 : 13dBm (20mW) の範囲を1dBm単位で設定 RM-92C 13 : 13dBm (20mW) ~ 24 : 24dBm (250mW) の範囲を1dBm単位で設定 ※RM-92Cの場合は、アンプを内蔵しているため、13dBm以下の設定は出来ません。</p> <p>2 : BandWidth Set (帯域幅) 0 : 125KHz 帯域幅を125KHzにします。 1 : 250KHz 帯域幅を250KHzにします。 2 : 500KHz 帯域幅を500KHzにします。</p> <p>3 : Factor Set (拡散率) 0 : SF6 SF6モード 1 : SF7 SF7モード 2 : SF8 SF8モード 3 : SF9 SF9モード 4 : SF10 SF10モード 5 : SF11 SF11モード 6 : SF12 SF12モード</p> <p>4 : Error Coding Rate (エラー訂正率) 1 : 4/5 2 : 4/6 3 : 4/7 4 : 4/8</p> <p>5 : Optimize Set1 (拡散データ最適化) 0 : OFF 1 : ON</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.5 無線詳細設定コマンド（'g' コマンド）【LoRaモード】 7.5.2 RM-92C2の場合

コマンド	デフォルト値	説明																																								
“g” コマンド	-	<p>送信パワー、総和時間処理の使用/不使用、送信インターバル時間の設定を行います。</p> <p>1 : TX-Power Set (送信出力)</p> <p>RM-92C2 13 : 13dBm (20mW) ~ 24 : 24dBm (250mW) の範囲を1dBm単位で設定 ※アンプを内蔵しているため、13dBm以下の設定は出来ません。</p> <p>2 : BandWidth Set (帯域幅)</p> <table><tbody><tr><td>0:7.8KHz</td><td>帯域幅を7.8KHzにします</td><td>5:41.6KHz</td><td>帯域幅を41.6KHzにします</td></tr><tr><td>1:10.4KHz</td><td>帯域幅を10.4KHzにします</td><td>6:62.5KHz</td><td>帯域幅を62.5KHzにします</td></tr><tr><td>2:15.6KHz</td><td>帯域幅を15.6KHzにします</td><td>7:125KHz</td><td>帯域幅を125KHzにします</td></tr><tr><td>3:20.8KHz</td><td>帯域幅を20.8KHzにします</td><td>8:250KHz</td><td>帯域幅を250KHzにします</td></tr><tr><td>4:31.2KHz</td><td>帯域幅を31.2KHzにします</td><td>9:500KHz</td><td>帯域幅を500KHzにします</td></tr></tbody></table> <p>3 : Factor Set (拡散率)</p> <table><tbody><tr><td>0 : SF6</td><td>SF6モード</td></tr><tr><td>1 : SF7</td><td>SF7モード</td></tr><tr><td>2 : SF8</td><td>SF8モード</td></tr><tr><td>3 : SF9</td><td>SF9モード</td></tr><tr><td>4 : SF10</td><td>SF10モード</td></tr><tr><td>5 : SF11</td><td>SF11モード(RM-92A/92Cのみ)</td></tr><tr><td>6 : SF12</td><td>SF12モード(RM-92A/92Cのみ)</td></tr></tbody></table> <p>4 : Error Coding Rate (エラー訂正率)</p> <table><tbody><tr><td>1 : 4/5</td><td>2 : 4/6</td><td>3 : 4/7</td><td>4 : 4/8</td></tr></tbody></table> <p>5 : Optimize Set1 (拡散データ最適化)</p> <table><tbody><tr><td>0 : OFF</td><td>1 : ON</td></tr></tbody></table>	0:7.8KHz	帯域幅を7.8KHzにします	5:41.6KHz	帯域幅を41.6KHzにします	1:10.4KHz	帯域幅を10.4KHzにします	6:62.5KHz	帯域幅を62.5KHzにします	2:15.6KHz	帯域幅を15.6KHzにします	7:125KHz	帯域幅を125KHzにします	3:20.8KHz	帯域幅を20.8KHzにします	8:250KHz	帯域幅を250KHzにします	4:31.2KHz	帯域幅を31.2KHzにします	9:500KHz	帯域幅を500KHzにします	0 : SF6	SF6モード	1 : SF7	SF7モード	2 : SF8	SF8モード	3 : SF9	SF9モード	4 : SF10	SF10モード	5 : SF11	SF11モード(RM-92A/92Cのみ)	6 : SF12	SF12モード(RM-92A/92Cのみ)	1 : 4/5	2 : 4/6	3 : 4/7	4 : 4/8	0 : OFF	1 : ON
0:7.8KHz	帯域幅を7.8KHzにします	5:41.6KHz	帯域幅を41.6KHzにします																																							
1:10.4KHz	帯域幅を10.4KHzにします	6:62.5KHz	帯域幅を62.5KHzにします																																							
2:15.6KHz	帯域幅を15.6KHzにします	7:125KHz	帯域幅を125KHzにします																																							
3:20.8KHz	帯域幅を20.8KHzにします	8:250KHz	帯域幅を250KHzにします																																							
4:31.2KHz	帯域幅を31.2KHzにします	9:500KHz	帯域幅を500KHzにします																																							
0 : SF6	SF6モード																																									
1 : SF7	SF7モード																																									
2 : SF8	SF8モード																																									
3 : SF9	SF9モード																																									
4 : SF10	SF10モード																																									
5 : SF11	SF11モード(RM-92A/92Cのみ)																																									
6 : SF12	SF12モード(RM-92A/92Cのみ)																																									
1 : 4/5	2 : 4/6	3 : 4/7	4 : 4/8																																							
0 : OFF	1 : ON																																									

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.6 無線詳細設定コマンド（‘g’ コマンド）【FSK/GFSKモード】

コマンド	デフォルト値	説明
“g” コマンド	-	<p>送信パワー、総和時間処理の使用/不使用、送信インターバル時間、Whitening機能の設定を行います。</p> <p>1 : TX-Power Set(送信出力) RM-92A 0 : 0dBm (1mW) ~ 13 : 13dBm (20mW) RM-92C/RM-92C2 13 : +13dBm (20mW) - 24 : +24dBm (250mW)</p> <p>2 : RF Tramsmit BitRate (通信速度) RM-92A/RM-92C 1200(1.2Kbps)~300000(300Kbps) RM-92C2 5000(5Kbps)~300000(300Kbps)</p> <p>3 : Whitening Set (スクランブル機能) 0 : Not Use 1 : Use</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.7 ACK設定コマンド ('h' コマンド)

コマンド	デフォルト値	説明
“h” コマンド	Not Use	<p><u>h コマンドでは、ACKパケットの使用、不使用を設定します。</u></p> <p>使用する場合は、タイムアウト時間の設定とリトライ回数の設定を行うことが出来ます。</p> <p>0 : Not Use    ACK機能を使用しません 1 : Use        ACK機能を使用します</p> <p>ACK Time Out Set(sec) [1 to 5]    ACKパケットの待ち時間を1~5秒の間で設定します。 ACK Retry Counter                    0: Not Retry    リトライを行いません     1~5:            リトライ回数</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.8 送信モード設定コマンド（'i' コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
"i" コマンド	Discharge	<p><u>データの送信モードを設定します。</u></p> <p>0 : Discharge 垂れ流し通信モード UARTから入力されたデータをバイナリ値で送信します</p> <p>1 : Frame 所定のフォーマットで入力されたデータをバイナリ値で送信します</p> <p>2 : TimerSend 内部で保持している自局アドレス、シリアルカウンタを設定した周期で自動送信します。 ※通信テストを行う場合などに使用します。</p> <p>6 : Output ambient noise 周辺ノイズレベルを含む、受信電力を1秒周期に表示出力します。</p> <p>7 : Continuous modulated transmission 連続変調送信モード 8bit単位に乱数生成したデータの変調データを連続送信します。</p> <p>8 : Continuous unmodulated transmission 連続無変調送信モード</p> <p>9 : AT-Command Mode 外部ホストからダイナミックにRM-92A/92Cシリーズを制御して通信を行うモードです。 <u>詳細は9章を参照下さい。</u></p> <p>※6 : Output ambient noiseで表示される受信電力のレベルは、LoRaモードとFSK/GFSKモードでは異なりますのでご注意ください。 LoRaモードが受信能力が高いため、表示される数値は小さくなります。</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.9 タイマースリープモード設定コマンド（‘j’ コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“j” コマンド	Not Use	<p><u>タイマースリープの 使用/不使用 を設定します。</u></p> <p>0 : Not Use    タイマースリープを使用しません</p> <p>1 : Use        1秒～86400(24時間)の範囲で設定します。 設定した周期で起床するため、ユーザーで追加したプログラム等を登録することで定周期送信などを行うことが出来ます。</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.10 UART設定コマンド（'k' コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“k” コマンド	115200	<p><u>UART通信速度の設定をします。</u></p> <p>0 : 4800 1 : 9600 2 : 14400 3 : 19200 4 : 38400 5 : 57600 6 : 115200 7 : 230400 8 : 460800 9 : 921600</p>

### Ver2.0以下のバージョン

UART設定については、xコマンドによるFlashROM保存されません。

デフォルト値を変更したい場合は、SDKにより、デフォルト設定値を変更していただき、再ビルドすることで変更が可能になります。

### Ver2.0以上のバージョン

xコマンドで保存することで、yコマンドや自動スタート設定により、保存したUART設定内容で動作します。

出荷時に戻す場合は、自動設定をOFFにして起動すると、115200bpsで起動します。

※SDKを利用して出荷時設定を改造された場合は、電源リセット後は、改造した設定で起動します。

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.11 受信パケット表示モード設定コマンド（'I' コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
"I" コマンド	RSSI Enable Transfer Add Disable	<u>パケット受信したデータをUART出力する際の表示方法を設定します。</u>
		1 : RSSI Output Set      RSSI(電波受信強度)の表示/非表示を設定します。(注1)
		2 : Transfer Address Output Set      送信元アドレス関連情報の表示/非表示を設定します。  表示を有効に設定すると、 送信元アドレス(rootアドレス)のOut put/Not Out putを聞いてきます。 ここで「Out put」を選択すると、中継ノード情報全てが表示されます。(注2)
		3 : CR/LF Output Set      出力の最後に、CR+LFを出力/非出力を設定します。
		4 : Recv Data Length Output Set      受信データ長の出力有無を設定します。
		5 : Recv Data Output Code Set      受信データの出力方法を設定します。

(注1)  
LoRaモード/SF6使用時のRSSI出力値について

LoRa変調の特性上、LoRaモード選択時、SF6 使用時のRSSI値については正しい値が表示されません。

表示値のほとんどが-120 dBm以下の弱い値が表示されますが、実際の値ではないため、 SF7を使用した際の数値の約85%程度を目安にしていただけます様、お願いいいたします。

(注2)  
Output Set を選択して、rootアドレス表示も有効にした場合には、以下のように表示されます。

送信元アドレス	= 1
直前アドレス	= 102
中継ノード1	= 100
中継ノード2	= 101
中継ノード3	= 102

※RSSI値表示有効設定

1,102,100,101,102,-121,data

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.12 キャリアセンス設定コマンド（'m'コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“m” コマンド	Use リトライ 2回	<p><u>キャリアセンスに関する設定を行います。</u></p> <p>0 : Not Use    キャリアセンスを無効にします。                  ※試験時のモードとしてご使用ください。</p> <p>1 : Use        キャリアセンスを有効にします。 0 :             キャリアセンスリトライを無効にします。 1~9 :          1~9回の間でリトライ回数を設定します。</p> <p>リトライ回数を1~9を選択した場合 Carrier Sense TimeOut Set (msec) [5-4000]= 5ms~4000ms の範囲を1ms単位で設定します</p>

## 7.13 AES設定コマンド（'n' コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“n” コマンド	Not Use	<p><u>n コマンドでは、AES機能の使用/不使用を設定します。</u></p> <p>0 : Not Use    AES機能を使用しません。</p> <p>1 : Use        AES機能を有効にします。 AES Key : 任意の16byteのKeyコードをバイナリ値で設定します。</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.14 通信総和時間管理コマンド（‘p’ コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“p” コマンド	Use	<p>ARIBで規定される1時間あたりの空中線電力送信時間、4秒間連続送信時間制限に対して、有効/無効の設定を行うことが出来ます。</p> <p>1 : TX_Total Time 0 : Not Use 総和時間管理機能を使用しません。 1 : Use 総和時間管理機能を有効にします。</p> <p>2 : TX_Max Length 0 : Not Use 4秒連続送信制限を無効にします。 1 : Use 4秒連続送信制限を有効にします。</p> <p>※お客様により製品化される場合は、必ず有効設定にして下さい。 無効設定にする場合は、お客様の責任において電波暗室等の設備の中でご使用下さい。</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.15 低レベルノイズフィルタ機能コマンド（‘q’ コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“q” コマンド	Not Use	<p>LoRaモード時に125dBm以下のレベルで発生するCH干渉ノイズをMAC層でフィルタカットする機能の有効/無効の設定します。</p> <p>0 : Not Use 機能を使用しません。</p> <p>1 : Use 機能を有効にします。</p>

## 7.16 デバッグメッセージ設定コマンド（‘t’ コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“t” コマンド	ON (TEXT)	<p>送信完了時などのイベント時に応答メッセージを出力する/しないを設定できます。</p> <p>0 : OFF 機能を使用しません。</p> <p>1 : ON (TEXT) テキストでデバッグ出力します。</p> <p>2 : ON (CODE) ステータスコードでデバッグ出力します。</p> <p>※ステータスコードについては、「11.2 データ送信リターンステータス一覧(デバッグ出力ON:CODE時)」を参照</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.17 CPU製造コード読み出しコマンド（'u' コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“u” コマンド	-	<p><u>CPUの製造コードの読み出しを行います。</u></p> <p>CPU製造コードは、本モジュールに内蔵しているCPU内部に書き込まれているユニークコードです。 用途は自由です。</p>

## 7.18 E2ROM設定コマンド（'y' 'x' 'z' コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“y” コマンド “x” コマンド “z” コマンド	-	<p><u>y 及び x コマンドでは、内蔵E2PROMに対する読み出し、保存を行います。</u></p> <p>y : 内蔵E2PROMに保存されている設定内容を読み出します。 出荷時は、デフォルト値が保存されています。</p> <p>x : 各種コマンドで設定した内容を内蔵E2PROMに保存します。</p> <p>z : E2PROMの内容を出荷時の状態に戻します。</p>

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.19 ブロードキャスト再発報コマンド ('w'コマンド)

コマンド	デフォルト値	説明						
“w” コマンド	Unconditional	<p><u>ブロードキャスト受信したデータを再発報させる機能です。</u></p> <p>Unconditional : 無条件ホッピング Conditional : 条件付きホッピング Not Use : 不使用</p> <p>本機能は、他ノードからのブロードキャストデータを受信した際に以下の条件で再発砲するかどうかの設定を行うことが出来ます。 なお、再発砲する場合、自分が発砲したデータの他ノードによる再発砲の回り込み発砲は行いません。</p> <table><tbody><tr><td>0 : Unconditional</td><td>他ノードからのブロードキャストデータを無条件に再発砲します。</td></tr><tr><td>1 : Conditional</td><td>自ノードが他ノードの中継器になっている場合にのみ、再発砲します。</td></tr><tr><td>2 : Not Use</td><td>再発砲を行いません</td></tr></tbody></table>	0 : Unconditional	他ノードからのブロードキャストデータを無条件に再発砲します。	1 : Conditional	自ノードが他ノードの中継器になっている場合にのみ、再発砲します。	2 : Not Use	再発砲を行いません
0 : Unconditional	他ノードからのブロードキャストデータを無条件に再発砲します。							
1 : Conditional	自ノードが他ノードの中継器になっている場合にのみ、再発砲します。							
2 : Not Use	再発砲を行いません							

# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.20 自動中継接続フィルタ設定コマンド（“r”コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“r” コマンド	-137	<p><u>自動中継接続時の接続条件としての電波受信強度の閾値を設定します。</u></p> <p>-137dBm ~ 0dBm : 接続モードが「自動中継モード」に設定されている状態で他ノードからの接続応答に対して、電波受信強度の閾値がrコマンドで設定した値よりも弱い場合には、接続対象から除外することが出来ます。 ※他ノートには、親機も含まれます。</p>

## 7.21 デバイスタイプの読み出しコマンド（“!”コマンド）

コマンド	デフォルト値	説明
“!” コマンド	デバイスタイプに依存	<p><u>SimpleMACが動作しているデバイスのタイプを読み出します。</u></p> <p>RM-92A上で動作している場合 RM-92A RM-92C上で動作している場合 RM-92C RM-92C2上で動作している場合 RM-92C2</p> <p>※SimpleMAC92X_ver2.10.1以降に対応</p>

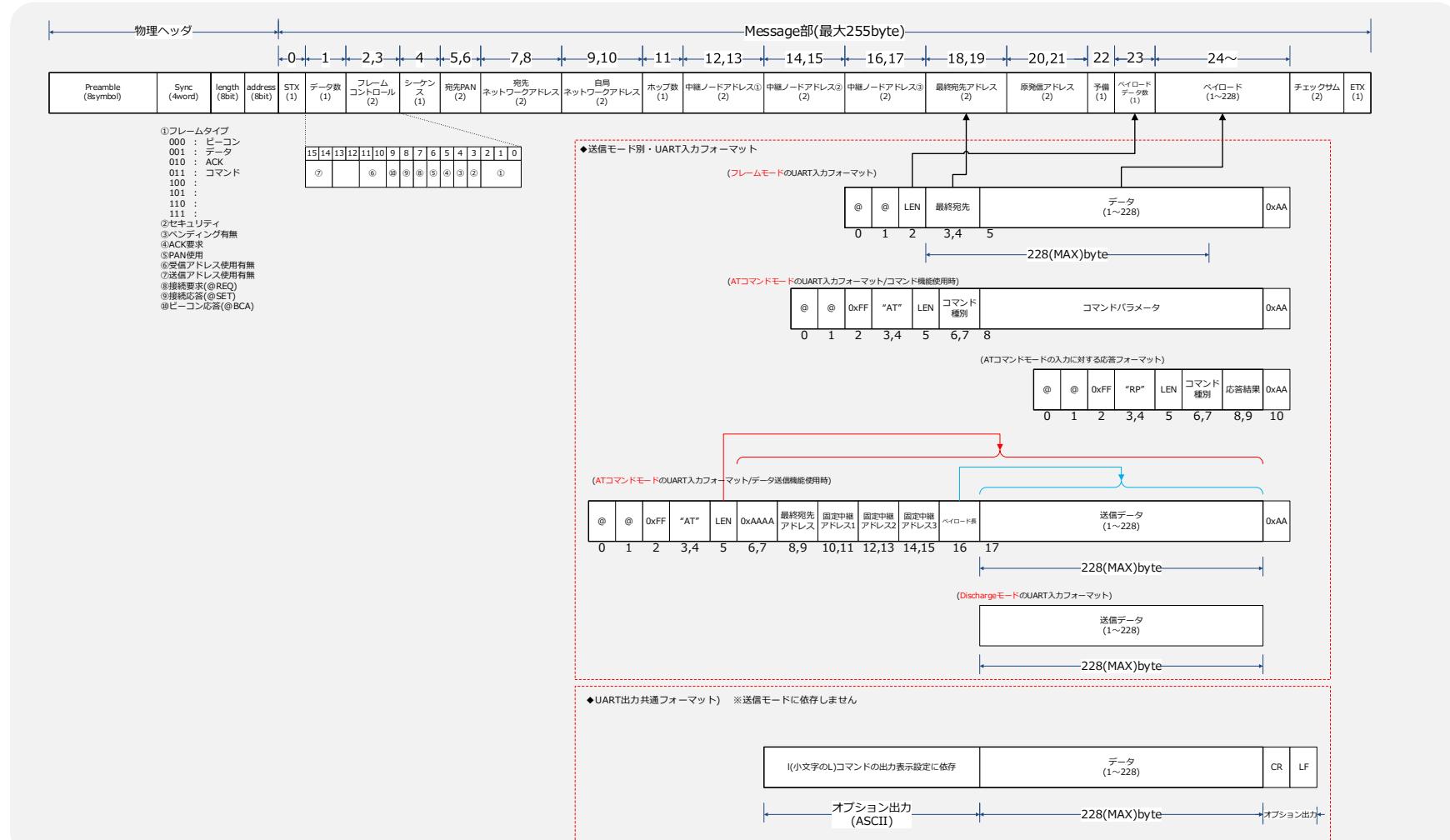
# 7.コンフィグレーション項目・詳細

## 7.22 トランシーバリセット機能の有効/無効設定（‘&’ コマンド）※RM-92C1/92C2未対応

コマンド	デフォルト値	説明
“&” コマンド	OFF	<p>アンテナから侵入する外部サージ等の要因でトランシーバーがフリーズした場合に初期化をする機能です。</p> <p>0 : OFF 初期化機能を使用しません。</p> <p>1 : ON 初期化機能を使用します。 → Transceiver Reset Time Set(sec) [1 - 3600] = 秒単位に初期化周期の設定</p> <p>※SimpleMAC92X_ver2.1.06以降に対応</p>

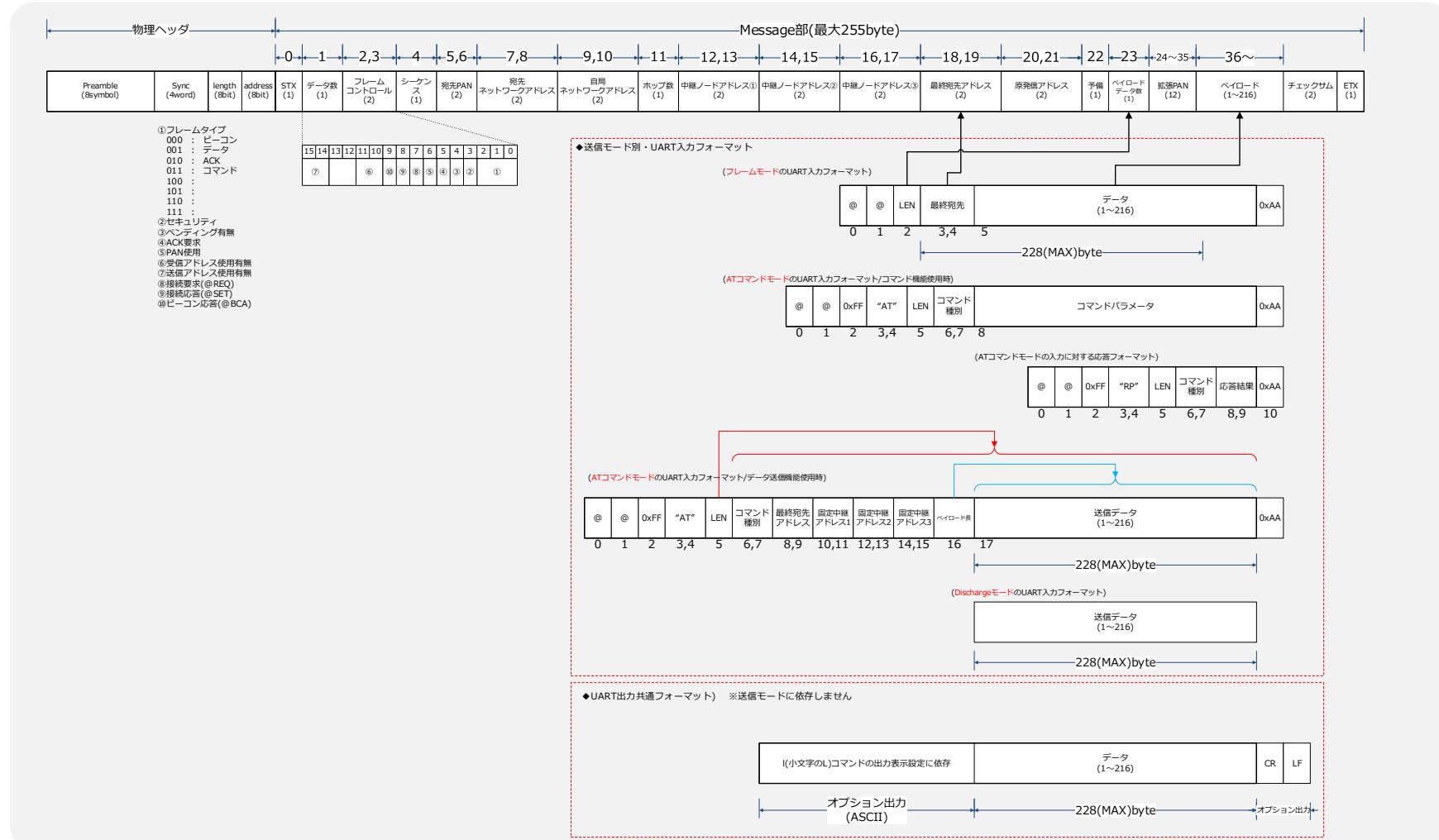
# 8. フレームフォーマット (全モード共通)

## 8.1 エアフォーマット 8.1.1 標準エアフォーマット (拡張PAN不使用時)



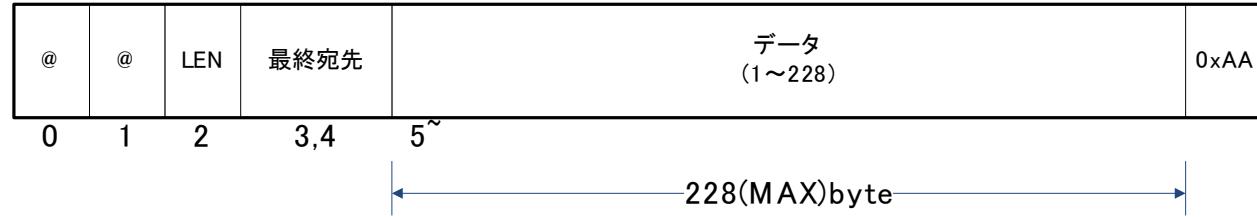
# 8. フレームフォーマット (全モード共通)

## 8.1 エアフォーマット 8.1.2 拡張PANエアフォーマット ※SimpleMAC\_Ver2.0以降に対応



# 8. フレームフォーマット (全モード共通)

## 8.2 UART入力フォーマット (フレームモード)



No	フィールド項目	説明	備考
01	@@	先頭コード	0x40 0x40
02	LEN	データ数	1~228をバイナリで指定
03	最終宛先アドレス	最終宛先となるアドレスを指定します	ビックエンディアンでバイナリ設定
04	データ	送信するデータをバイナリで設定します	
05	0xAA	最終コード	0xAA

# 8. フレームフォーマット (全モード共通)

## 8.3 UART出力フォーマット・出荷時設定の場合

RSSI値(ASCII) ("ex -131")	,	データ(1~228) ※拡張PAN使用時は216	CR	LF
-----------------------------	---	--------------------------	----	----

No	フィールド項目	説明	備考
01	RSSI値	電波受信強度を+13~-137dBmの範囲でASCII表示します	出力オプション有効時(デフォルトは出力有効)
02	,	カンマ	
03	データ	データ部の内容をそのまま出力(Binary)	
04	改行コード+ ラインフィード	コンフィグレーション設定で、出力設定を有効時に出力します。	出力オプション有効時(デフォルトは出力有効)

# 8. フレームフォーマット (全モード共通)

## 8.4 UART出力フォーマット・送信元アドレス出力設定の場合

※I(小文字のL)で設定します

原発信 送信元アドレス	,	直接 送信元アドレス	,	RSSI値 ("ex -131")	,	データ(1~228) ※拡張PAN使用時は216	CR	LF
----------------	---	---------------	---	----------------------	---	--------------------------	----	----

No	フィールド項目	説明	備考
01	原発信・送信元アドレス	データの送信元のアドレスを出力します	
02	,	カンマ	
03	直接・送信元アドレス	親機に直接送信してくる送信元アドレスを出力します	中継機を介さずにデータを受信した場合は原発信送信元アドレスと直接送信元アドレスは同一のため、同じアドレスが2つ表示されます
04	,	カンマ	
05	RSSI値	電波受信強度を+13~-137dBmの範囲でASCII表示します	出力オプション有効時(デフォルトは出力有効)
06	,	カンマ	
07	データ	データ部の内容をそのまま出力(Binary)	
08	改行コード+ ラインフィード	コンフィグレーション設定で、出力設定有効時に出力します。	出力オプション有効時(デフォルトは出力有効)

# 8. フレームフォーマット (全モード共通)

## 8.5 UART出力フォーマット・送信元アドレス+中継アドレス出力設定の場合

※I(小文字のL)で設定します

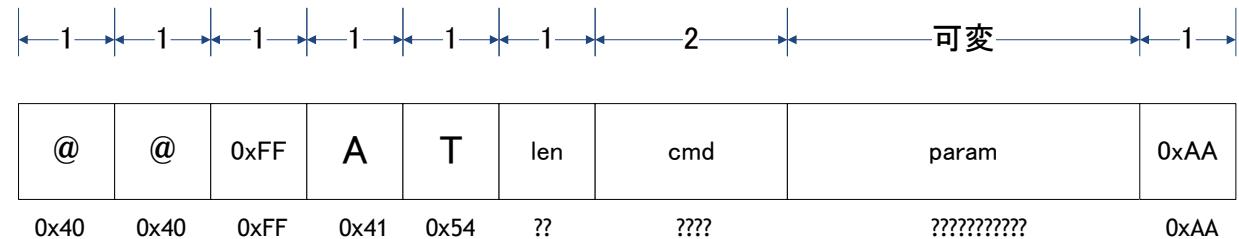
原発信 送信元アドレス	,	直接 送信元アドレス	,	第1 中継機アドレス	,	第2 中継機アドレス	,	第3 中継機アドレス	,	RSSI値 ("ex -131")	,	データ(1~228) ※拡張PAN使用時 は216	CR	LF
----------------	---	---------------	---	---------------	---	---------------	---	---------------	---	----------------------	---	------------------------------	----	----

No	フィールド項目	説明	備考
01	原発信・送信元アドレス	データの送信元のアドレスを出力します	
02	,	カンマ	
03	直接・送信元アドレス	親機に直接送信してくる送信元アドレスを出力します	
04	,	カンマ	
05	第1中継機アドレス	原発信・送信元アドレスから見た時の第1中継機のアドレスです	中継しない時は、65535 が表示されます
06	,	カンマ	
07	第2中継機アドレス	第1・中継機アドレスから見た時の第2・中継機のアドレスです	中継しない時は、65535 が表示されます
08	,	カンマ	
09	第3中継機アドレス	第2・中継機アドレスから見た時の第3・中継機のアドレスです	中継しない時は、65535 が表示されます
10	,	カンマ	
11	RSSI値	電波受信強度を+13~-137dBmの範囲でASCII表示します	出力オプション有効時(デフォルトは出力有効)
12	,	カンマ	
13	データ	データ部の内容をそのまま出力(Binarry)	
14	改行コード+ ラインフィード	コンフィグレーション設定で、出力設定を有効時に出力します。	出力オプション有効時(デフォルトは出力有効)

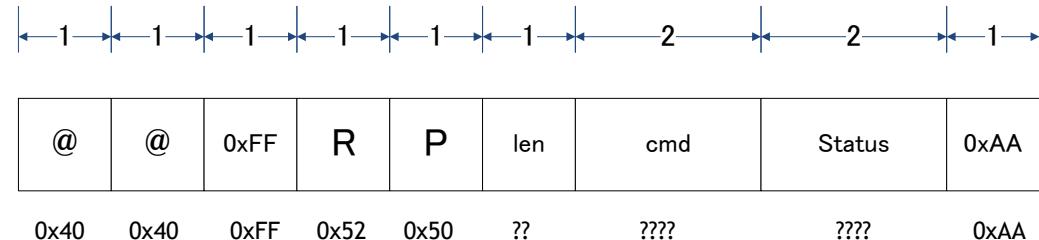
# 9. ATコマンド機能 (AT-command-mode時)

## 9.1 コマンドフォーマット ※SimpleMAC92X\_ver2.0以降に対応

コマンド



応答レスポンス



※ len は、cmdとparamの長さの合計バイトです。

# 9. ATコマンド機能 (AT-command-mode時)

## 9.2 コマンド種別一覧表

No	Cmd	Len	機能	Param (コマンドパラメータ)	書式例（数値は16進数）	補足説明
01	0x0001	3	周波数の変更	0x18 ~ 0x3d ※CH24~CH61	4040FF415403000119AA	周波数CHを25に設定
02	0x0002	4	PANアドレスの変更	第一パラメータ 0x0001 ~ 0xffff 第二パラメータ 00 or 01 第三パラメータ 任意の拡張PANアドレス12byte	4040FF41541100020020010102030405060708090A0B0CAA	PANアドレスを0x0020(32)に設定 拡張PANを使用 拡張PANアドレスに0102030405060708090A0B0Cを設定
03	0x0003	4	自局アドレスの変更	0x0000 ~ 0xffffe	4040FF41540400030064AA	自局アドレスを0x0064(100)に設定
04	0x0004	4	最終宛先アドレスの変更	0x0000 ~ 0xffffe	4040FF41540400040100AA	最終宛先アドレスを0x0100(256)に設定
05	0x0005	3	ユニットモードの変更	0x00(親機) 0x01(子機)	4040FF415403000501AA	ユニットモードを子機に設定
06	0x0006	11	ルーティングモードの変更	第1パラメータ 0x00 (固定中継) 0x01(自動中継) 0x02(中継無し) 第2パラメータ 中継ノードアドレス1 0x0000~0xFFFFE 第3パラメータ 中継ノードアドレス2 0x0000~0xFFFFE 第4パラメータ 中継ノードアドレス3 0x0000~0xFFFFE 第5パラメータ 最終宛先	中継無し(最終宛先:ブロードキャスト) 4040FF41540B000602FFFFFFFFFFFFFFFAA 自動中継(最終宛先:1) 4040FF41540B000601FFFFFFFFFFFFF0001AA 固定中継(中継1:1/中継2:2/中継3:3/最終宛先:100) 4040FF41540B0006010001000200030064AA	第2～第4パラメータは、第1パラメータで0x00(固定中継)を選択した場合に意味を成し、アドレスに0xFFFFを入力した所までのホップ数で中継通信を行います。 0x01(自動中継)、0x02(中継無し)を選択した場合は、無視されます。
07	0x0007	3	RF送信出力設定	RM-92Aについて 0x00~0x0d ※0dBm ~ 13dBm RM-92Cについて 0x0d~0x18 ※13dBm~ 24dBm	4040FF41540300070DAA	出力を13dBm(20mW)に設定
08	0x0008	3	BW設定 (LoRa設定時)	0x00~0x02 ※0x00=125KHz 0x01=250KHz 0x02=500KHz	4040FF415403000802AA	BWを500KHzに設定
09	0x0009	3	SF設定 (LoRa設定時)	0x00~0x06 ※0x00=SF6 0x01=SF7 0x02=SF8 0x03=SF9 0x04=SF10 0x05=SF11 0x06=SF12	4040FF415403000901AA	SFをSF7に設定
10	0x000A	3	Coding Rate 設定 (LoRa設定時)	0x01~0x04 ※0x01=4/5 0x02=4/6 0x03=4/7 0x04=7/8	随時追加	
11	0x000B	3	Coding最適化設定	0x00~0x01 ※0x00=無効 0x01=有効	随時追加	SF11/S12の場合は強制的に有効設定

# 9. ATコマンド機能 (AT-command-mode時)

## 9.2 コマンド種別一覧表

No	Cmd	Len	機能	Param (コマンドパラメータ)	書式例 (数値は16進数)	補足説明
12	0x000C	3	総和時間有効/無効	0x00~0x01 ※0x00=無効 0x01=有効	随時追加	
13	0x000D	4	ACKモード有効/無効	第1パラメータ 0x00~0x01 ※0x00=無効 0x01=有効 第2パラメータ 0x01~0xa ※ACKタイムアウト時間(秒)	4040FF415404000D0105AA	
14	0x000E	3	UART速度設定	0x00~0x09 ※0x00=4800(bps) 0x01=9600(bps) 0x02=14400(bps) 0x03=19200(bps) 0x04=38400(bps) 0x05=57600(bps) 0x06=115200(bps) 0x07=230400(bps) 0x08=460800(bps) 0x09=921600(bps)	4040FF415403000E06AA	
15	0x000F	3	RSSI値出力設定	0x00~0x01 ※0x00=無効 0x01=有効	4040FF415403000F01AA	
16	0x0010	10	キャリアセンス有効/無効	第1パラメータ 0x00~0x01 ※0x00=無効 0x01=有効 第2パラメータ 0x00~0x09 ※0x00=リトライ回数 第3パラメータ 0x80~0x003d0900 ※FSK設定時 (128~4000000) 第4パラメータ 0x05~0x0fa0(4000) ※LoRa設定時 (5~4000)	4040FF41540A00100103000000800005AA	
17	0x0011	3	変調方式の変更	0x01~0x03 ※0x01=LoRa 0x02=FSK 0x03=GFSK	4040FF415403001101AA	
18	0x0012	3	自動中継接続時の RSSI閾値設定	0xC4~0x88 ※-60dBm~-120dBm	4040FF4154030012B0AA	
19	0x0013	6	FSK通信速度設定	0x0000004b0~0x000493e0 ※1200bps(1.2K)~300000bps(300K)	4040FF4154060013000186A0AA	
20	0x0014	3	デバッグメッセージ出力有無	0:出力なし 1:デバッグテキスト出力 2:デバッグステータスコード出力	4040FF415403001401AA	
21	0x0015	3	受信時CR+LF出力有無設定	0:無し 1:有り	4040FF415403001501AA	
22	0x0016	4	受信時送信元ID出力有無設定	第1パラメータ 送信元ID出力 0:出力無し 1:出力有り 第2パラメータ 中継ルートID出力 0:出力無し 1:出力有り	4040FF41540400160101AA	第2パラメータは、第1パラメータが「1」の場合のみ有効

# 9. ATコマンド機能 (AT-command-mode時)

## 9.2 コマンド種別一覧表

No	Cmd	Len	機能	Param (コマンドパラメータ)	書式例 (数値は16進数)	補足説明
23	0x0017	3	プロードキャスト ホッピング設定	0:無条件ホップ 1:条件つきホップ 2:not use	4040FF415403001700AA	条件つきホップは、以下の場合のみホップする ・自動中継モード ・子機モード ・自分が中継の役割を担う場合 ・合計3ホップ以内
24	0x0018	3	受信データ長出力 有無設定	0:出力なし 1:出力あり	4040FF415403001801AA	ASCIIで出力されます
25	0x0019	3	受信データ出力方法設定	0:バイナリ出力 1:Hexをキャラクタで出力	4040FF415403001900AA	1:HEXをキャラクタで出力 の例 バイナリで「0x12 0x34 0xAB」というデータの場合、 “1234AB”とキャラクタ出力します。
26	0x001A		予備			
27	0x001B		予備			
28	0x001C		予備			
29	0x001D		予備			
30	0x001E		予備			
31	0x001F		予備			

# 9. ATコマンド機能 (AT-command-mode時)

## 9.2 コマンド種別一覧表

No	Cmd	Len	機能	Param (コマンドパラメータ)	書式例 (数値は16進数)	補足説明
32	0x0020	19	AES 有効/無効 &キー	第1パラメータ 0:AES無効 1:AES有効 第2パラメータ AESキー16バイト(binary)	AES無効 4040FF41541300200000000000000000 0000000000000000000000AA  AES有効 4040FF4154130020011234567890A BCDEF1A2B3C4D5E6F0A1BAA	第2パラメータは、第1パラメータが「1」の時のみ有効
33	0x0021	3	送信最大ペイロード長 自動設定有無	0:自動設定 無効 1:自動設定 有効	自動設定 有効 4040FF415403002100AA	
34	0x0022	2	送信済み総和時間読出し	パラメータ無し  本コマンドの実行によるレスポンスデータのstatusの2byteに、送信可能な残り時間が返される	4040FF4154020022AA	レスポンスの例 40 40 FF 52 50 04 00 22 01 4C AA の場合 01 4C = 332 → あと 332秒 送信可能
35	0x0023					
36	0x0024					
37	0x0025					
38	0x0026					
39	0x0027					
40	0x0028					
41	0x0029					

# 9. ATコマンド機能 (AT-command-mode時)

## 9.2 コマンド種別一覧表

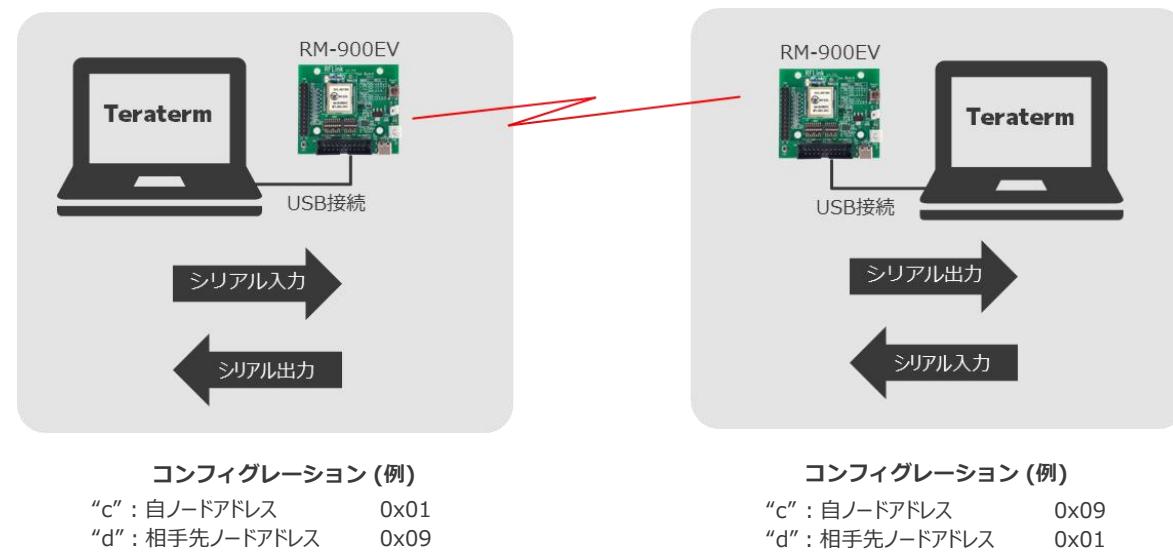
No	Cmd	Len	機能	Param (コマンドパラメータ)	書式例 (数値は16進数)	補足説明
42	TBD	TBD	同期/パケット送信	TBD	随時追加	
43	0xAAAA	2 +可変	データ送信要求	第1パラメータ 0x0000~0xFFFF 第2パラメータ 0x0000~0xFFFFE 第3パラメータ 0x0000~0xFFFFE 第4パラメータ 0x0000~0xFFFFE 第5パラメータ 0x01~0x64 第6パラメータ 任意  ※最終宛先アドレス ※固定中継アドレス1 ※固定中継アドレス2 ※固定中継アドレス3 ※ペイロード長 (最大228byte)	4040FF41540CAAA0000FFFFFFFFFFF0131AA	書式例は0x31("1")を送信する場合の例です。 第2~第4パラメータは、中継モードを固定中継モード設定時に意味を成し、他のモード時は無視されます。
44	0x2001	2	ホットスワップ指示	無し	4040FF4154022001AA	この指示を出すと、CPUはその場で永久ループします。 ※ATコマンドのみ
45	0x0021	3	最大送信ペイロード長 自動調整	0:無効 1:有効	4040FF415403002100AA	4秒連続送信制限を無効にします
46	0x3001	3	連続変調/連続無変調 の送信	0:連続変調 1:連続無変調	4040FF415401300101AA	リセットするまで連続されます
47	0x3002	2	デバイスタイルの 読み出し	無し	4040FF4154023002AA	このコマンドを受けるとRPでデバイスタイルを返します。
48	0x8021	2	CPUユニークコードの 読み出し	無し	4040FF4154028021AA	CPUのユニークコードの読み出しを行います。

# 10.サンプルプログラムの設定例

## 10.1 コンフィグレーション設定例 ~ 単純なシリアルデータの送受信

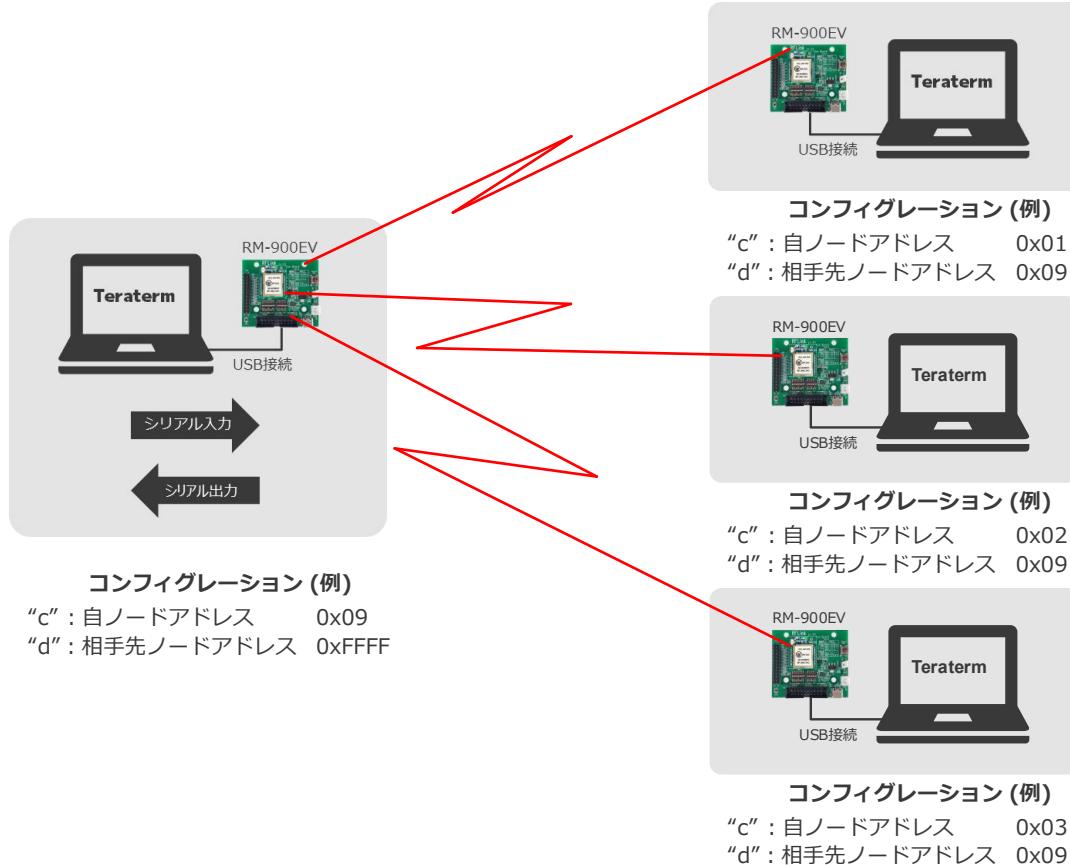
### 1:1通信で、PC～PC間で単純な通信を行う場合の設定例

2台のPC間で、それぞれのキーボードから入力した値をリアルタイムに相互通信します。  
下記コンフィグレーション値以外はデフォルト設定を使用します。(CH24/Dischargeモード)



# 10.サンプルプログラムの設定例

## 10.2 コンフィグレーション設定例 ~ 単純なシリアルデータの 1:Nによる構築



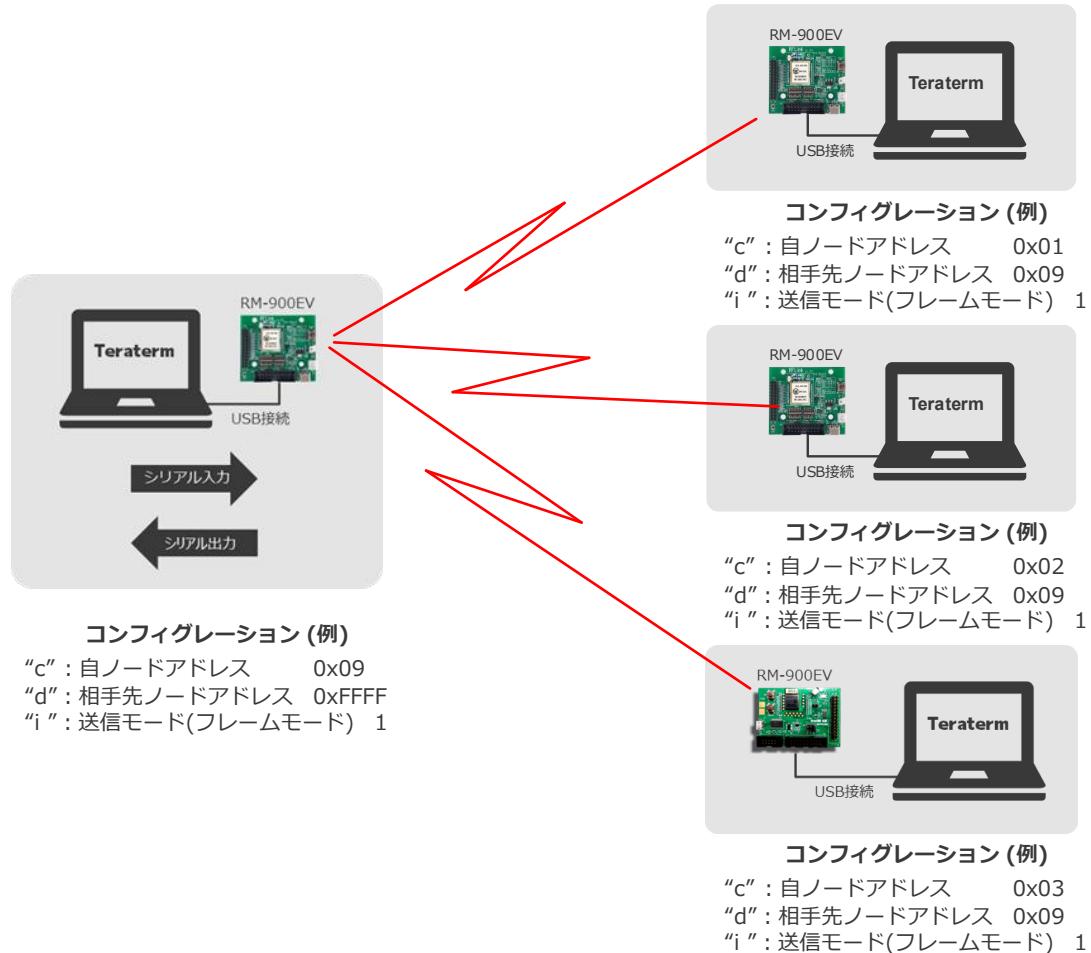
### 1:N通信で、PC～PC間で単純な通信を行う場合の設定例

親機 1：子機3の構成で、各キーボードから入力した値をリアルタイムに相互通信します。

親機から子機に対しては、ブロードキャストアドレスで送信します。  
左記コンフィグレーション値以外はデフォルト設定を使用します。  
(CH24/Dischargeモード)

# 10.サンプルプログラムの設定例

## 10.3 コンフィグレーション設定例 ~ 1:Nによる子機指定通信



### 1:N通信で、PC～PC間で指定フォーマットによる通信を行う場合の設定例

親機 1：子機3の構成で所定フォーマットのデータを相互通信します。  
親機から子機に対しては、子機アドレスを指定して送信します。

左記コンフィグレーション値以外は、デフォルト設定を使用します。(CH24)  
指定フォーマットについては、「8章 UARTフォーマット」を参照下さい。

# 10.サンプルプログラムの設定例

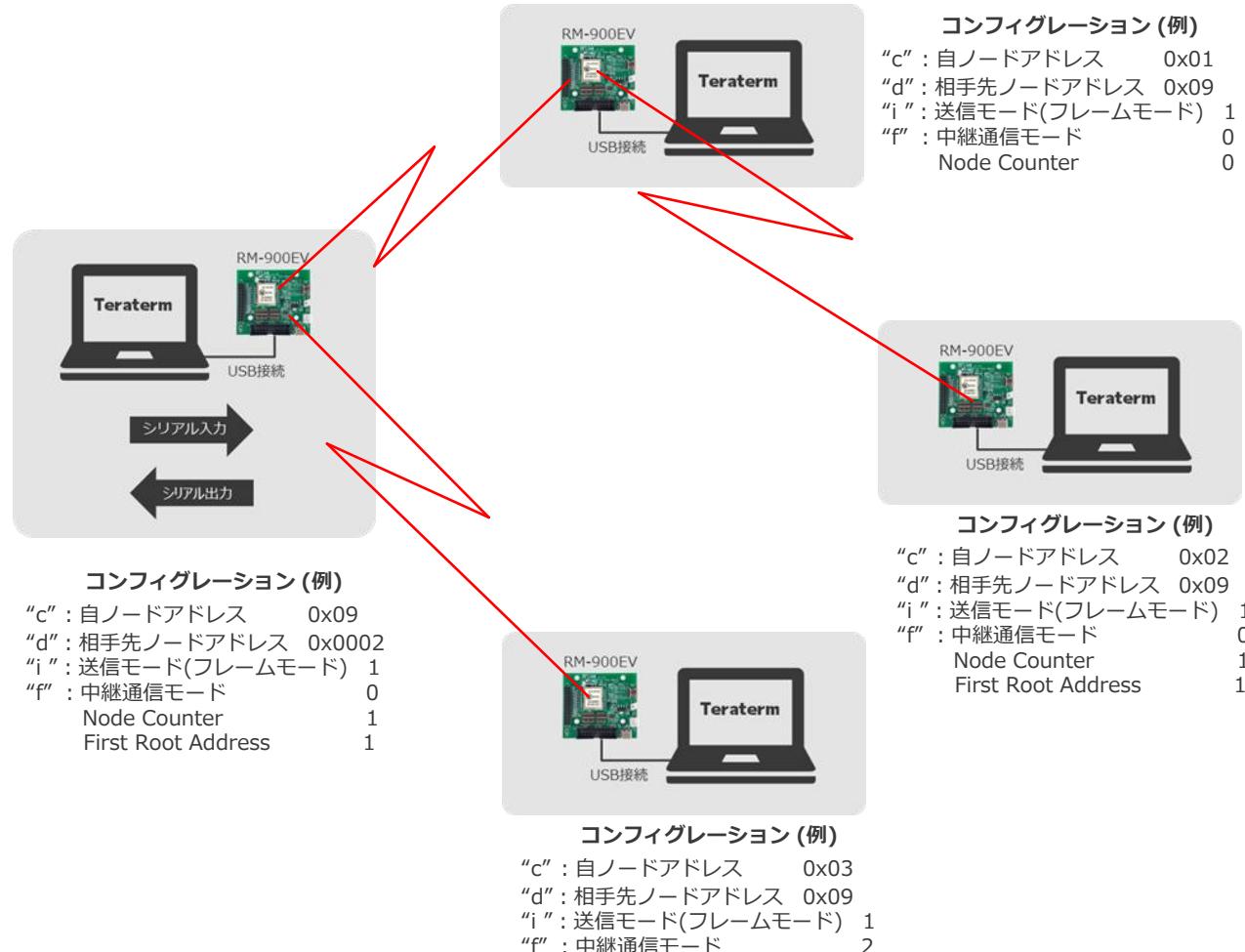
## 10.4 コンフィグレーション設定例 ~ 経路指定通信を含む 1:Nによる子機指定通信

### 1:N通信で、PC～PC間で、経路指定通信を行う場合の設定例

基本構成は、前項と同じです。

“f”コマンドで、Fixactionモードを指定します。

8章の指定フォーマットに従い、最終子機のアドレスを指定してUARTで無線モジュールに送信します。



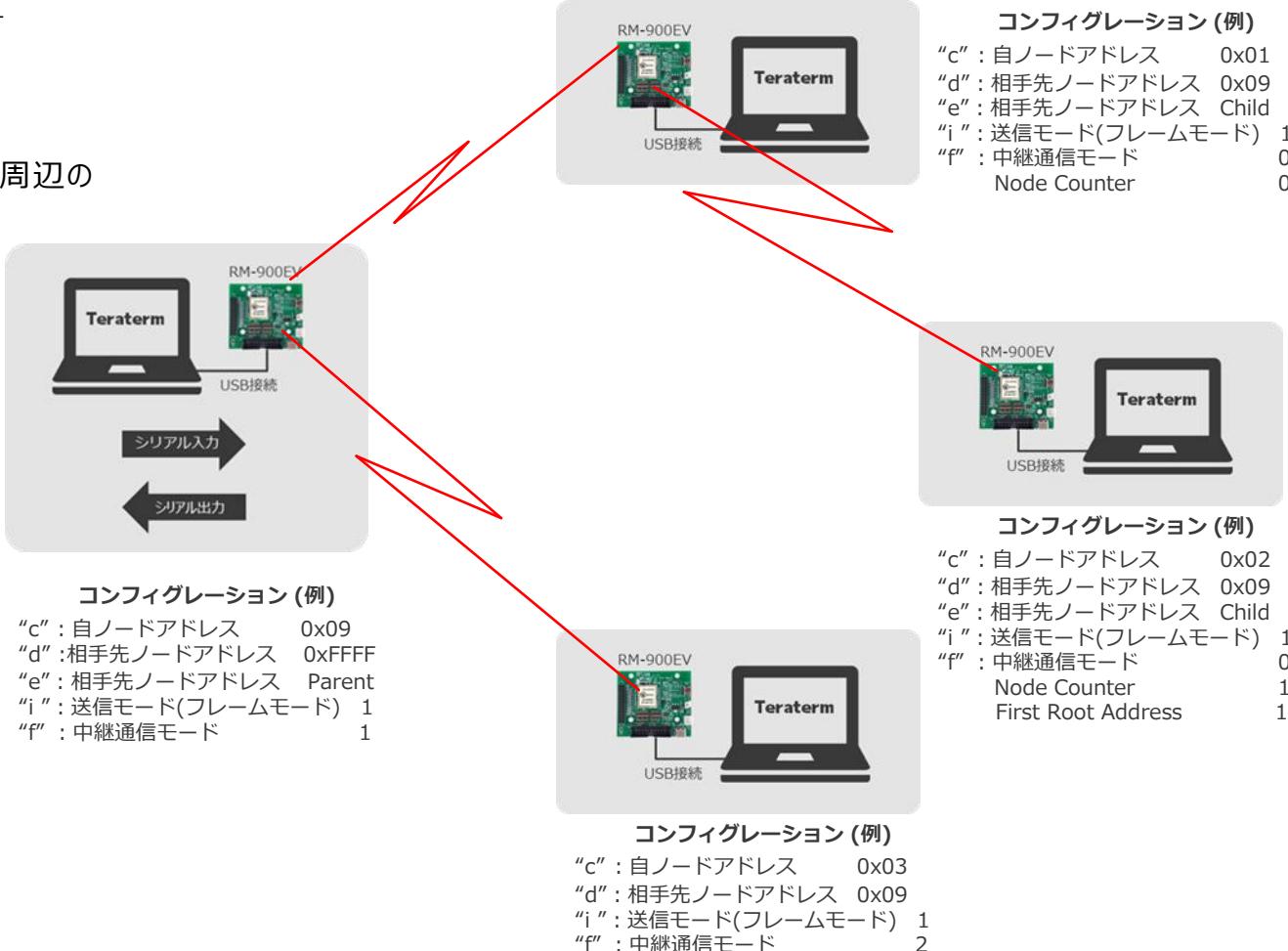
# 10.サンプルプログラムの設定例

## 10.5 コンフィグレーション設定例 ~ Auto Routingによる送信設定

### 自動ルーティング機能によるネットワーク構成を利用する場合の設定例

各子機は、ネットワーク開始後、自動的に親機への接続を試みます。

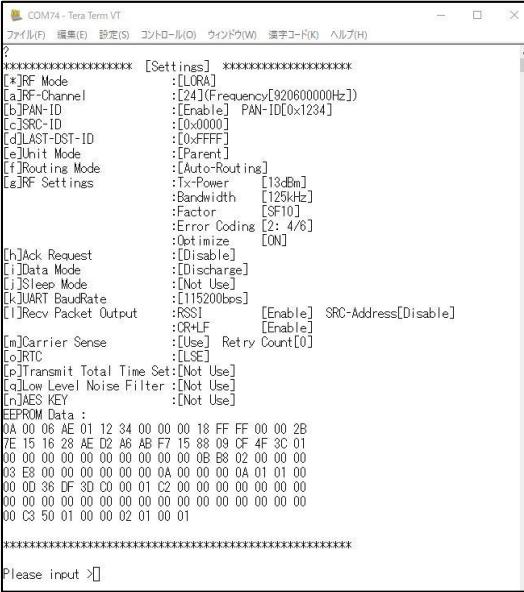
親機への直接接続が出来なかった場合、親機とネットワーク接続している周辺の子機との接続を試み、ネットワーク経路情報を生成します。



# 10.サンプルプログラムの設定例

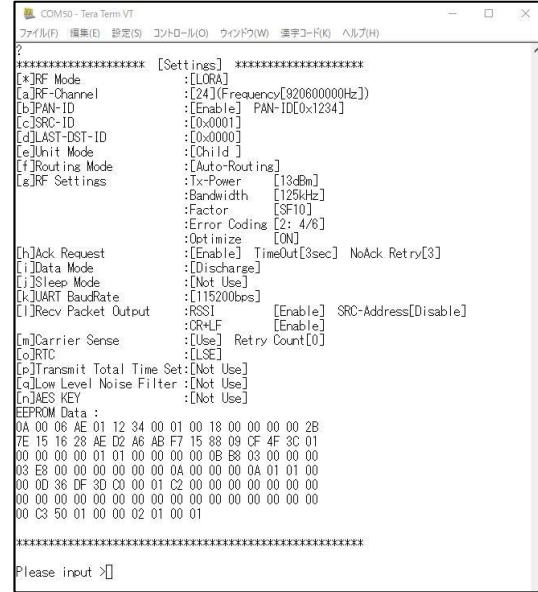
## 10.6 中継試験用開発キット(RM-92X-SDK-std3)の出荷時設定を利用した中継機能の確認方法

中継機用開発キット(RM-92X-SDK-std3)では、すぐに中継テストを行うための設定がモジュール内のFlashROMに予め書き込まれた状態で出荷されています。



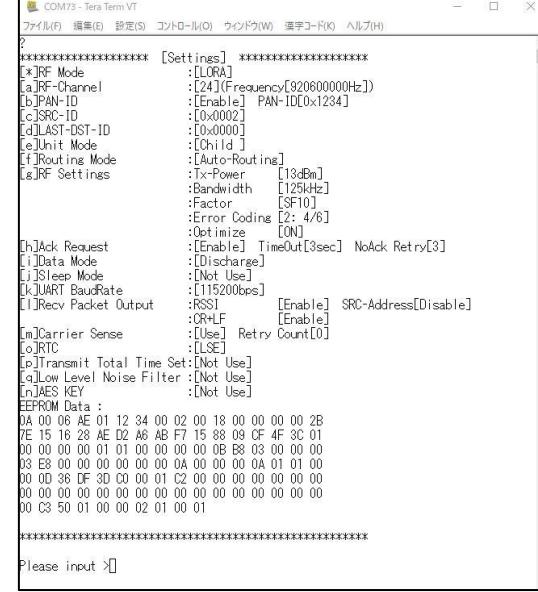
```
***** [Settings] *****
[*]RF Mode :[LORA]
[a]RF-Channel :[241][Frequency[920600000Hz]]
[b]PAN-ID :[Enable] PAN-ID[0x1234]
[c]SRC-ID :[0x0000]
[d]LAST-DST-ID :[0xFFFF]
[e]Unit Mode :[Parent]
[f]Routing Mode :[Auto-Routing]
[g]RF Settings :[txPower [13dBm]
:bandwidth [125kHz]
:factor [SF10]
:errorCoding [2: 4/6]
:optimize [ON]
[h]Ack Request :[Disable]
[i]Data Mode :[Discharge]
[j]Sleep Mode :[Not Use]
[k]UART BaudRate :[115200bps]
[l]Recv Packet Output :RSSI [Enable] SRC-Address[Disable]
:m]Carrier Sense :[Use] Retry Count[0]
[n]RTC :[LSE]
[p]Transmit Total Time Set:[Not Use]
[q]Low Level Noise Filter :[Not Use]
[r]AES KEY :[Not Use]
EEPROM Data :
DA 00 06 AE 01 12 34 00 00 00 18 FF FF 00 00 2B
7E 15 16 28 AE D2 A6 AB F7 15 88 09 CF 4F 3C 01
00 00 00 00 00 00 00 00 0B B8 03 00 00 00
03 E8 00 00 00 00 00 0A 00 00 00 04 01 01 00
00 0D 36 DF 3D C0 00 01 C2 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 C3 50 01 00 00 02 01 00 01
*****
Please input >[]
```

親機の設定画面



```
***** [Settings] *****
[*]RF Mode :[LORA]
[a]RF-Channel :[241][Frequency[920600000Hz]]
[b]PAN-ID :[Enable] PAN-ID[0x1234]
[c]SRC-ID :[0x0002]
[d]LAST-DST-ID :[0x0000]
[e]Unit Mode :[Child]
[f]Routing Mode :[Auto-Routing]
[g]RF Settings :[txPower [13dBm]
:bandwidth [125kHz]
:factor [SF10]
:errorCoding [2: 4/6]
:optimize [ON]
[h]Ack Request :[Enable] TimeOut[3sec] NoAck Retry[3]
[i]Data Mode :[Discharge]
[j]Sleep Mode :[Not Use]
[k]UART BaudRate :[115200bps]
[l]Recv Packet Output :RSSI [Enable] SRC-Address[Disable]
:m]Carrier Sense :[Use] Retry Count[0]
[n]RTC :[LSE]
[p]Transmit Total Time Set:[Not Use]
[q]Low Level Noise Filter :[Not Use]
[r]AES KEY :[Not Use]
EEPROM Data :
DA 00 06 AE 01 12 34 00 00 00 18 00 00 00 00 2B
7E 15 16 28 AE D2 A6 AB F7 15 88 09 CF 4F 3C 01
00 00 00 00 01 00 00 00 00 B8 03 00 00 00
03 E8 00 00 00 00 00 0A 00 00 00 04 01 01 00
00 0D 36 DF 3D C0 00 01 C2 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 C3 50 01 00 00 02 01 00 01
*****
Please input >[]
```

子機1の設定画面



```
***** [Settings] *****
[*]RF Mode :[LORA]
[a]RF-Channel :[241][Frequency[920600000Hz]]
[b]PAN-ID :[Enable] PAN-ID[0x1234]
[c]SRC-ID :[0x0002]
[d]LAST-DST-ID :[0x0000]
[e]Unit Mode :[Child]
[f]Routing Mode :[Tx-Power [13dBm]
:bandwidth [125kHz]
:factor [SF10]
:errorCoding [2: 4/6]
:optimize [ON]
[h]Ack Request :[Enable] TimeOut[3sec] NoAck Retry[3]
[i]Data Mode :[Discharge]
[j]Sleep Mode :[Not Use]
[k]UART BaudRate :[115200bps]
[l]Recv Packet Output :RSSI [Enable] SRC-Address[Disable]
:m]Carrier Sense :[CR+LF] [Enable]
[n]RTC :[LSE]
[p]Transmit Total Time Set:[Not Use]
[q]Low Level Noise Filter :[Not Use]
[r]AES KEY :[Not Use]
EEPROM Data :
DA 00 06 AE 01 12 34 00 02 00 18 00 00 00 00 2B
7E 15 16 28 AE D2 A6 AB F7 15 88 09 CF 4F 3C 01
00 00 00 00 01 00 00 00 00 B8 03 00 00 00
03 E8 00 00 00 00 00 0A 00 00 00 04 01 01 00
00 0D 36 DF 3D C0 00 01 C2 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 C3 50 01 00 00 02 01 00 01
*****
Please input >[]
```

子機2の設定画面

# 11.SimpleMACステータスコード一覧

## 11.1 データ送信リターンステータス一覧表（デバッグ出力ON : TEXT時）

No	メッセージ	内容	説明
01	Send OK	正常送信	
02	Carrier Sense Error	キャリアセンスエラー	送信時に-80dBm以上の空中線電力を検知した場合に、指定回数のリトライ検出を行いすべて表示されるメッセージです。 本メッセージ表示後、送信データは破棄されます。
03	Transmit WaitTime Error	休止時間エラー	前回送信完了後からネットワーク設定に応じた休止時間以内にデータを送信しようとした時に表示されます。 本メッセージは、プログラムにより必ず規定値に従った休止するように設定しているため、基本的には表示されることはございませんが、お客様によるプログラム改造等で休止時間が変更された場合などに表示される可能性があります。
04	Transmit TotalTime Error	総和時間エラー	ネットワークの設定条件により、送信しようとするタイミングから1時間分さかのぼった時の送信時間の総和時間が360秒に達している場合に表示されます。 本メッセージが表示された場合、時間をおいて再送信することで表示されなくなります。

本メッセージは、基本設定メニューの「t」コマンドで、Debug Print Output 設定を ON(TEXT) にした場合に表示されます。

# 11.SimpleMACステータスコード一覧

## 11.2 データ送信リターンステータス一覧表（デバッグ出力ON : CODE時）

No	ステータスコード	内容	備考
1	0x0000	システムスタート	システム開始時に出力します
2	0x1000	送信完了OK	無線送信完了時に出力します。(ACK受信とは関連していません)
3	0x1001	キャリアセンスエラー	
4	0x1002	送信後休止時間エラー	
5	0x1003	送信総和時間エラー	
6	0x2000	受信チェックサムエラー	
7	0x3000	自動中継接続完了通知	自動中継時のみ
8	0x3001	ルーティングテーブル未登録ノード	自動中継時のみ
9	0x4000	ACK受信OK	
10	0x4001	ACK受信NG (タイムアウト)	
11	0x5000	UARTデータ受信タイムアウト	フレームモード時のみ
12	0x5001	UARTデータフォーマットエラー	フレームモード時のみ

本ステータスコードは、基本設定メニューの「t」コマンドで、Debug Print Output 設定を ON(CODE) にした場合に表示されます。

# 11.SimpleMACステータスコード一覧

## 11.3 ATコマンドモード時の戻り値一覧

No	ステータスコード	内容	説明
1	0x0000	正常応答	正常応答時の戻り値です。
2	0xE001	パラメータエラー	ATコマンド発行時のパラメータ内容が規定外の場合の戻り値です。
3	0xE002	コマンドコードエラー	存在しないコマンドを発行した場合の戻り値です。
4	0xE003	フォーマットエラー	データサイズ(LEN)に対する終端コード(0xAA)の位置が一致しない場合の戻り値です。
5	0x009A	デバイスタイプ	cmd=0x3002に対する応答で、RM-92A上で動作している場合
6	0x009C	デバイスタイプ	cmd=0x3002に対する応答で、RM-92C上で動作している場合
7	0x09C1	デバイスタイプ	cmd=0x3002に対する応答で、RM-92C1上で動作している場合
8	0x09C2	デバイスタイプ	cmd=0x3002に対する応答で、RM-92C2上で動作している場合

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.1 概要

SimpleMACの自動中継機能は、子機から親機にデータを送信する通信経路を無線機が自動計算して経路通信を行う機能です。

親機は、ネットワークに参加した子機からデータ受信することにより、内部メモリに子機までの経路情報を自動的に保存します。

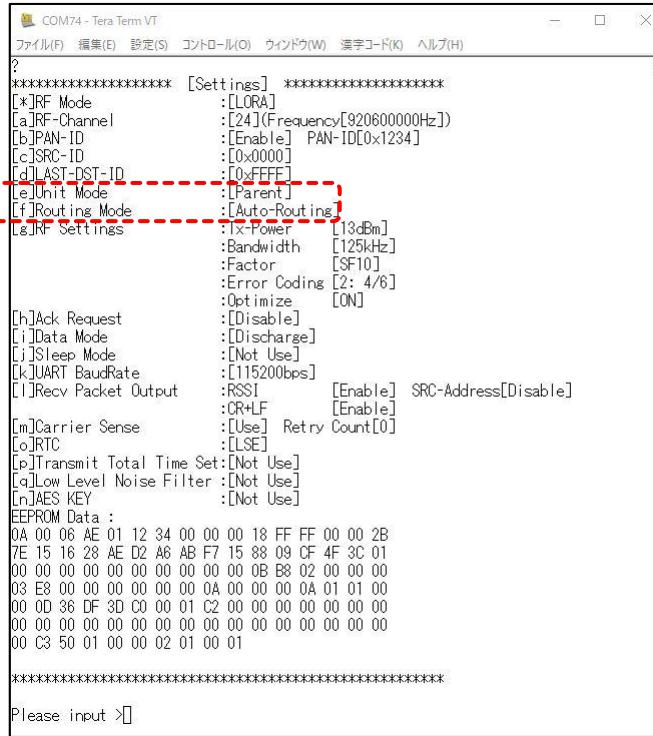
親機のさらに上位にあたるPCやクラウドから子機に対する下りコマンドを送信する際に、保存された経路情報が使用されます。

項目		
設定CHの範囲	①RM-92A (20mW)の場合 CH24～CH61までの38CH ②RM-92Cシリーズ (250mW)の場合 CH24～CH38までの15CH	
1つのネットワークの定義	1つのCH (周波数CH) + 1つのPANアドレスを設定	
1つのCH内のPANの最大数	65535 (0～65534)	
1つのネットワーク内の親機と子機の台数	親機 × 1 子機 × 65534	
子機～親機間の通信ホッピング数	最大4ホップ	送信子機と親機の間に中継子機が3台あります
親機で記憶可能な経路情報数	160経路 (1経路につき、最大3台の中継ノードアドレス)	親機のFlashROM容量に依存します
子機が中継機として動作する場合の接続制限	親機からと直接接続している場合 →他の子機からの接続可能台数 3台  親機から見て、第2接続位置の時 →他の子機からの接続可能台数 2台 (自分と親機の間に1台)  親機から見て、第3接続位置の時 →他の子機からの接続可能台数 1台 (自分と親機の間に2台)  親機から見て、第4接続位置の時 →他の子機からの接続可能台数 0台 (自分と親機の間に3台)	

ネットワークの理論上の接続ノード数は、1つの親機に対して最大65534台の子機を登録可能ですが、RM-92AのFlashROM容量の都合により、親機で記憶可能な経路情報数は160経路情報までとなります。このため、双方向通信が可能な接続可能な子機の台数は、160台です。下り制御が不要な子機がある場合は、理論値まで登録可能です。

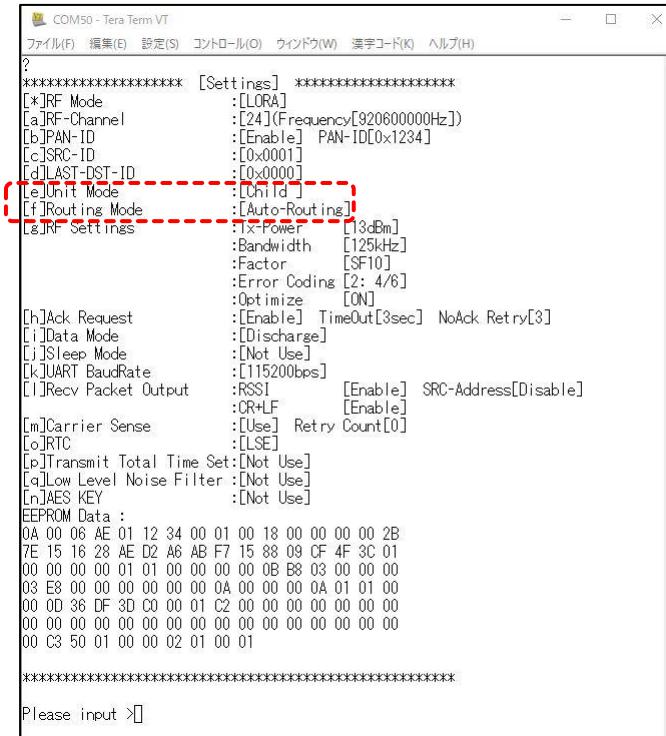
# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.2 自動中継接続の設定



```
COM74 - Tera Term VT
[Settings]
[*]RF Mode :[LORA]
[a]RF-Channel :[24](Frequency[920600000Hz])
[b]PAN-ID :[Enable] PAN-ID[0x1234]
[c]SRC-ID :[0x0000]
[d]LAST-DST-ID :[0xFFFF]
[e]Unit Mode :[Parent]
[f]Routing Mode :[Auto-Routing]
[g]RF Settings :[Tx-Power [13dBm]
:Bandwidth [125kHz]
:Factor [SF10]
:Error Coding [2: 4/6]
:Optimize [ON]
[h]Ack Request :[Disable]
[i]Data Mode :[Discharge]
[j]Sleep Mode :[Not Use]
[k]UART BaudRate :[115200bps]
[l]Recv Packet Output :RSSI [Enable] SRC-Address[Disable]
:CR+LF [Enable]
[m]Carrier Sense :[Use] Retry Count[0]
[n]RTC :[LSE]
[p]Transmit Total Time Set:[Not Use]
[q]Low Level Noise Filter :[Not Use]
[r]AES KEY :[Not Use]
EEPROM Data :
0A 00 06 AE 01 12 34 00 00 00 18 FF FF 00 00 00 2B
7E 15 16 28 AE D2 A6 AB F7 15 88 09 CF 4F 3C 01
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 0B B8 02 00 00 00
03 E8 00 00 00 00 00 00 0A 00 00 00 04 01 01 00
00 0D 36 DF 3D C0 00 01 C2 00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 C3 50 01 00 00 02 01 00 01
*****
Please input >[]
```

親機設定の例



```
COM50 - Tera Term VT
[Settings]
[*]RF Mode :[LORA]
[a]RF-Channel :[24](Frequency[920600000Hz])
[b]PAN-ID :[Enable] PAN-ID[0x1234]
[c]SRC-ID :[0x0001]
[d]LAST-DST-ID :[0x0000]
[e]Unit Mode :[Child]
[f]Routing Mode :[Auto-Routing]
[g]RF Settings :[Tx-Power [13dBm]
:Bandwidth [125kHz]
:Factor [SF10]
:Error Coding [2: 4/6]
:Optimize [ON]
[h]Ack Request :[Enable] TimeOut[3sec] NoAck Retry[3]
[i]Data Mode :[Discharge]
[j]Sleep Mode :[Not Use]
[k]UART BaudRate :[115200bps]
[l]Recv Packet Output :RSSI [Enable] SRC-Address[Disable]
:CR+LF [Enable]
[m]Carrier Sense :[Use] Retry Count[0]
[n]RTC :[LSE]
[p]Transmit Total Time Set:[Not Use]
[q]Low Level Noise Filter :[Not Use]
[r]AES KEY :[Not Use]
EEPROM Data :
0A 00 06 AE 01 12 34 00 01 00 18 00 00 00 00 2B
7E 15 16 28 AE D2 A6 AB F7 15 88 09 CF 4F 3C 01
00 00 00 01 01 00 00 00 00 00 0B B8 03 00 00 00
03 E8 00 00 00 00 00 00 0A 00 00 00 00 0A 01 01 00
00 0D 36 DF 3D C0 00 01 C2 00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 C3 50 01 00 00 02 01 00 01
*****
Please input >[]
```

子機設定の例

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.3 自動中継接続の仕組み

### 子機の動作

- ① 電源投入後、親機に対して「直接接続要求(@REQ)」を発行。
- ② 親機から「直接接続要求応答(@SET)」を受信した場合、親機との直接接続完了。
- ③ 親機から「直接接続要求応答(@SET)」が一定時間(10秒)受信できなかった場合、周辺の子機に対して、「ネットワーク参加要求(@BCN)」を発行。
- ④ 周辺子機でネットワーク参加済みの子機が「ネットワーク参加要求(@BCN)」を受信した場合、「ネットワーク参加要求応答(@BCA)」を発行。  
その際、@BCAコマンドを発行するノードの下記情報を付加して@BCAを発行します。

- ・@BCA発行元のノードID
- ・親機との接続情報
- ・周辺子機との接続情報
- ・自ノードと直接接続しているノードとの電波受信強度値

- ⑤ 周辺子機から「ネットワーク参加要求応答(@BCA)」を受信した場合、@BCA発行元との電波受信強度値と④で受信するネットワーク情報をもとに総合的判断によって、1つの@BCA発行元の子機を選択し、そのノードに対して「接続登録要求(@REG)」を発行します。
- ⑥ 一度確立したネットワークが何らかの原因によって途絶え、データ送信に対する「データ到達ACK(@ACK)」が受信できなくなった場合、所定回数リトライ処理を行います。
- ⑦ 所定回数のリトライ実行しても、「データ到達ACK(@ACK)」が受信できない場合、ネットワーク情報を破棄して、①～⑤の処理を繰り返します。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.3 自動中継接続の仕組み

### 親機の動作

①電源投入後、子機からの「直接接続要求応答(@SET)」を受信した場合、「直接接続要求応答(@SET)」を返信します。

ネットワーク層で行うのはここまでです。

親機は、親機から子機への通信経路情報を自動的には把握できません。

ネットワーク接続した子機が参加完了後に親機宛にダミーデータを送信することによって、親機内の記憶領域へ自動的に経路情報が保存されます。

親機の上位 (PC、クラウド等)から、任意の子機宛に下りデータを送信する際に経路情報が利用されます。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

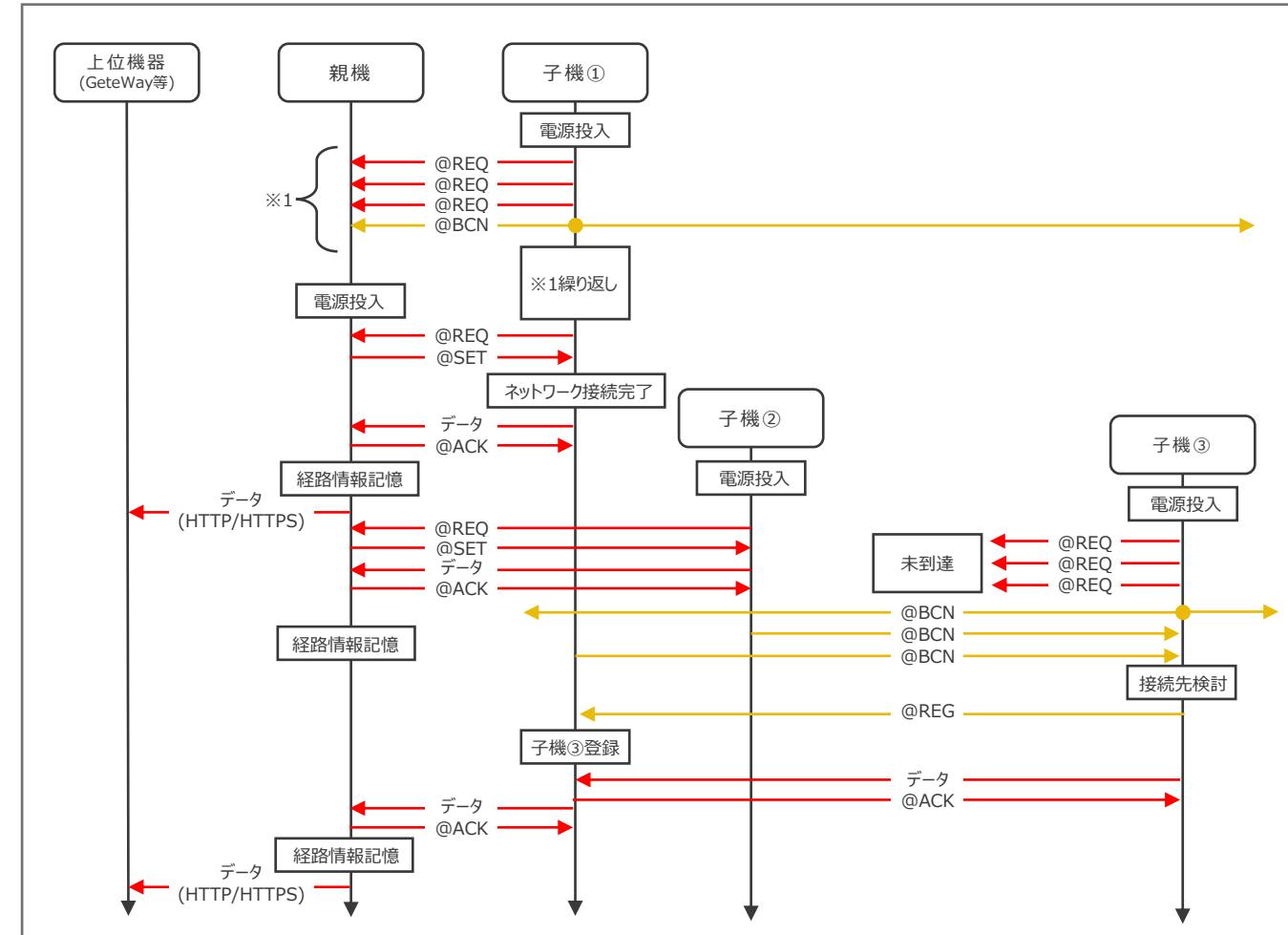
## 12.4 自動中継接続通信イメージ

### 説明

左図の例は、3台の子機と1台の親機がそれぞれ任意のタイミングで電源が投入された場合の接続イメージです。

### コマンド説明

- @REQ … 子機から親機に対する直接接続要求
- @SET … 親機から子機への接続応答
- @BCN … 子機から周辺の子機に対する接続要求
- @BCA … 周辺子機から接続要求元の子機に対する応答
- @REQ … 周辺子機に対する登録決定
- @ACK … データ受け取りACK



# 12.SimpleMAC自動中継機能について

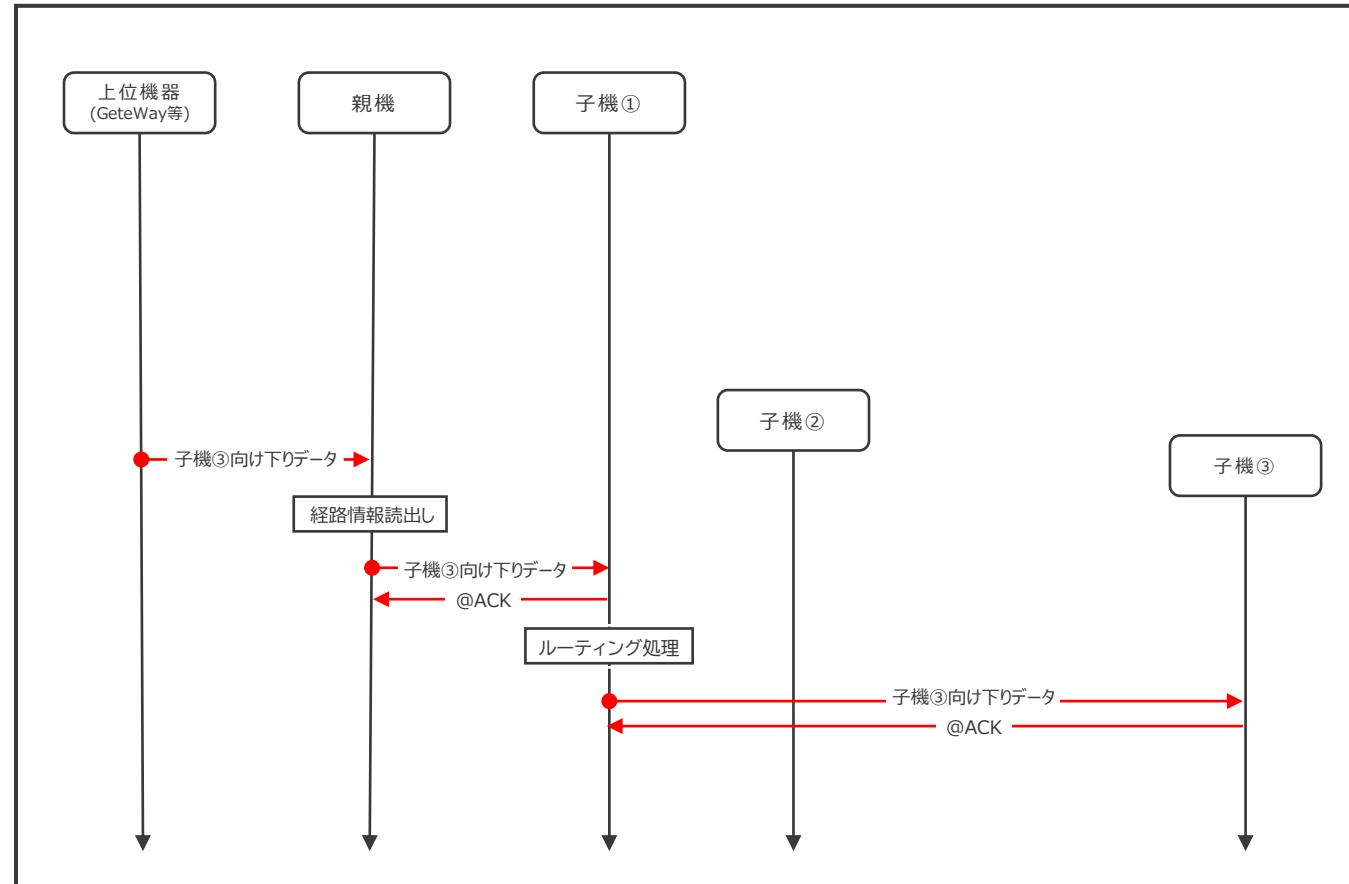
## 12.5 自動中継による下り通信イメージ

### 説明

左図の例は、子機③が自動中継接続された後で上位から子機③に対して下りデータを送信する時のイメージです。

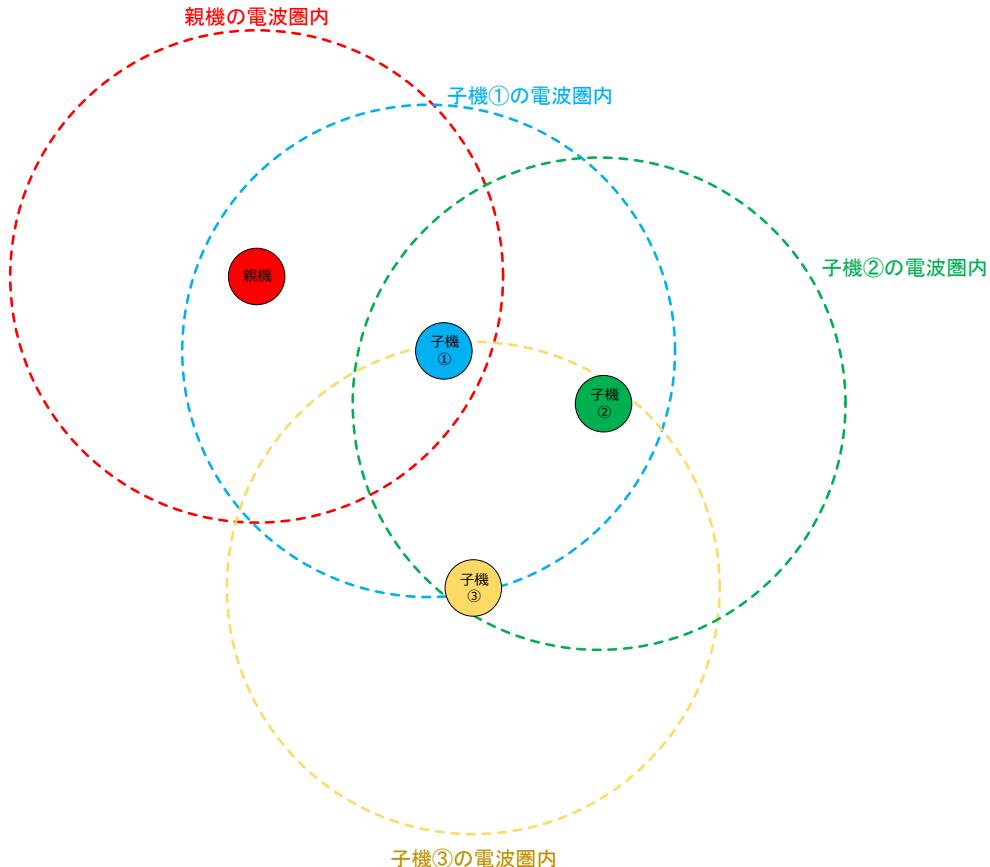
### コマンド説明

@ACKデータ … 受け取りACK



# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.6 自動中継接続概念図



### 説明

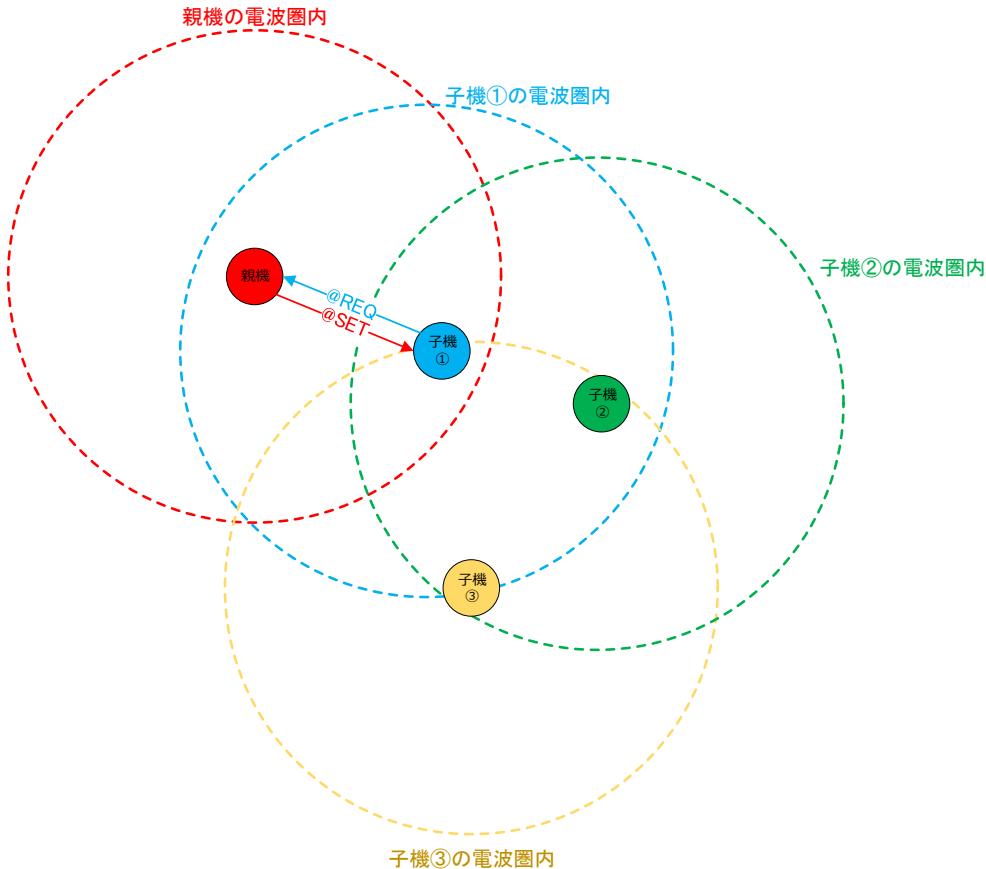
左図の例は、1台の親機と3台の子機で構成するネットワーク概念図です。

親機の電波圏内には、子機①だけが含まれています。

子機①の電波圏内には、子機②と子機③が含まれますが、子機①に対して子機②の方が近い距離にいます。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.7 自動中継接続概念図・子機①から親機への接続要求



### 説明

左図の例は、子機①に電源が投入された場合の動作を示しています。

子機①は、電源投入後、親機に対して接続要求(@REQ)を発行します。

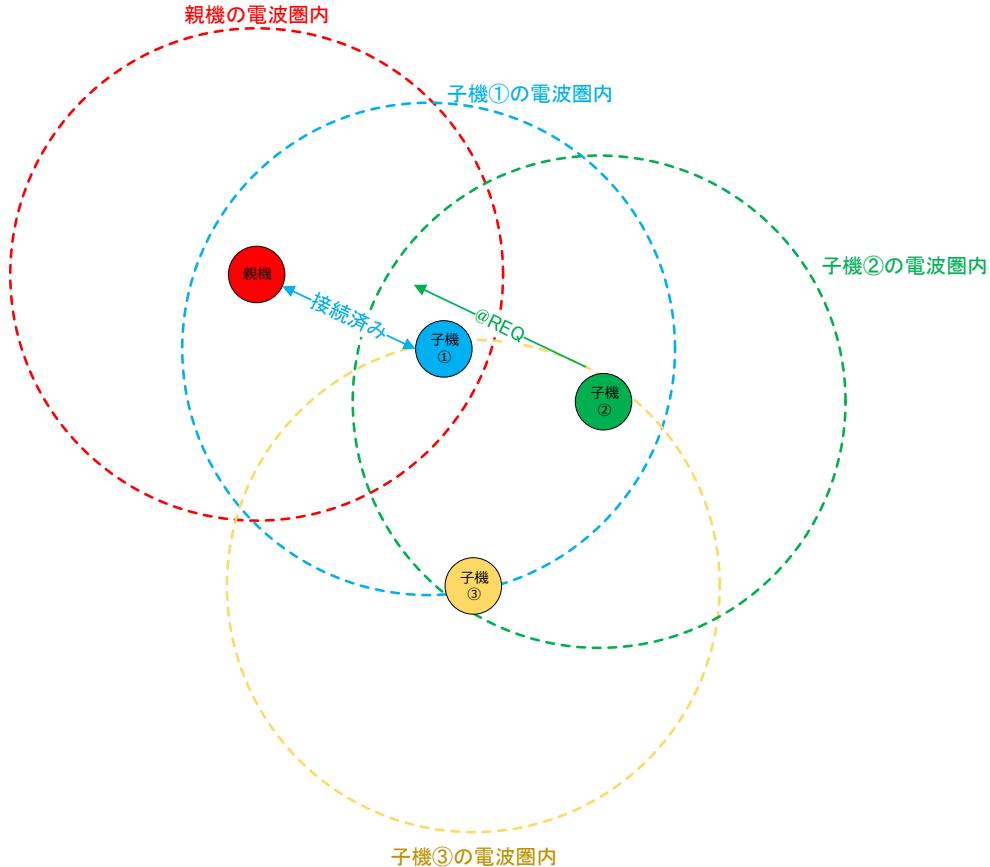
親機は、@REQを受信すると、発行元の子機①に対して、接続応答(@SET)を返信します。

以上で、子機①と親機との接続が完了します。

※子機②と子機③の電源は入っていないものとして、説明しています。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.8 自動中継接続概念図・子機②の電源ONから親機への接続要求



### 説明

左図の例は、子機②に電源が投入された場合の動作を示しています。

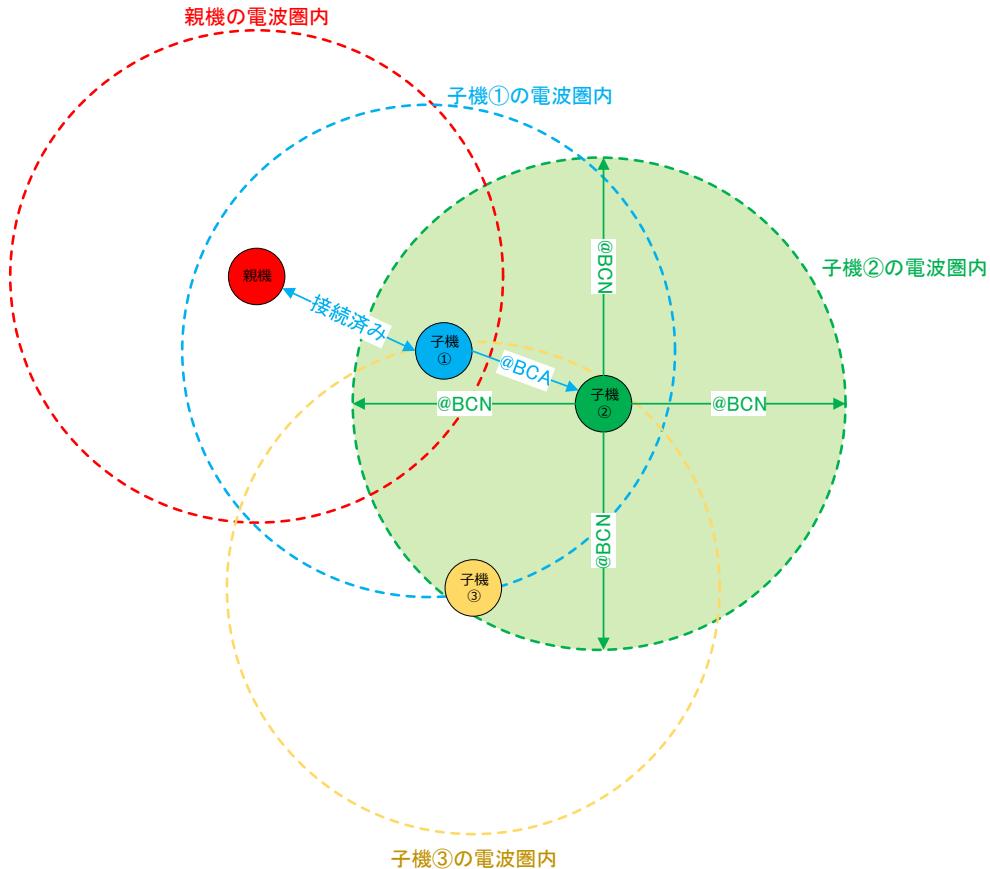
子機②は、電源投入後、親機に対して接続要求(@REQ)を発行します。

しかし、子機②は親機の圏外であるため、親機からの応答は受け取れない状態を表しています。

※この時子機②に設定したリトライを所定回数実施されます。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.9 自動中継接続概念図・子機②の電源ON



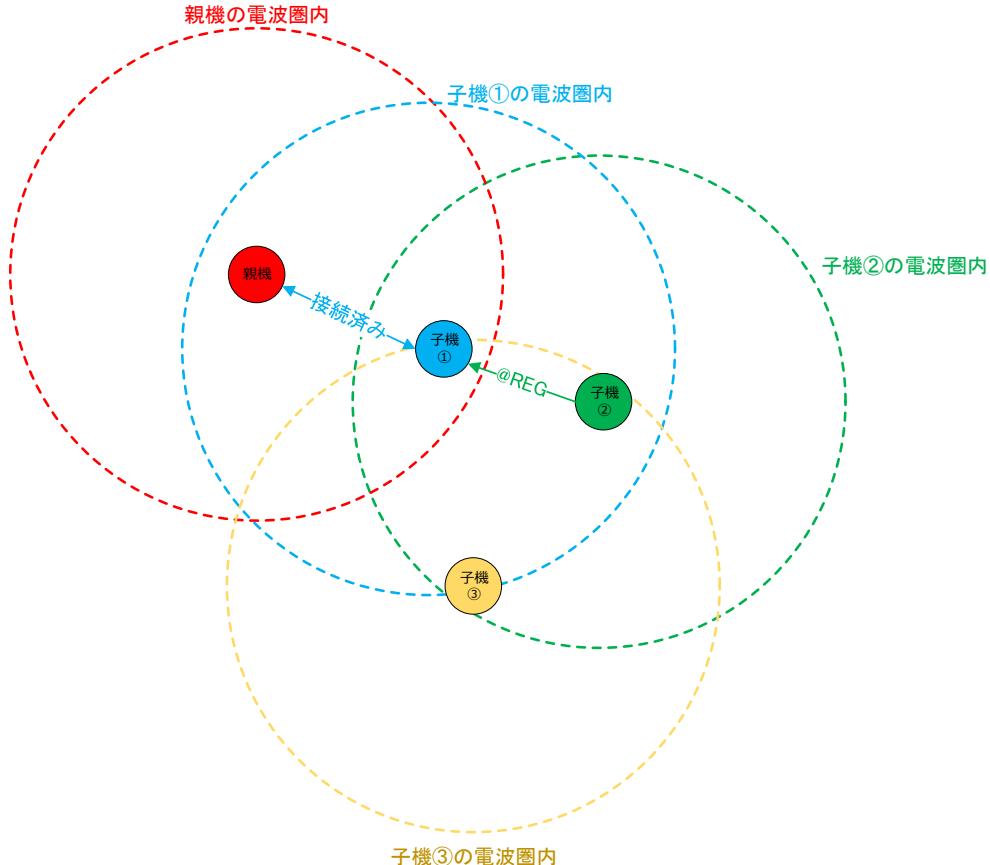
### 説明

左図の例は、子機②から周辺子機に対する周辺検索(@BCN)が発行されたことを表しています。

子機②からの周辺検索(@BCN)に対して、  
子機①が接続応答(@BCA)を返信します。  
子機③は、この時点で電源が入ってないので、応答は返送されません。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.10 自動中継接続概念図・子機②のネットワーク参加完了



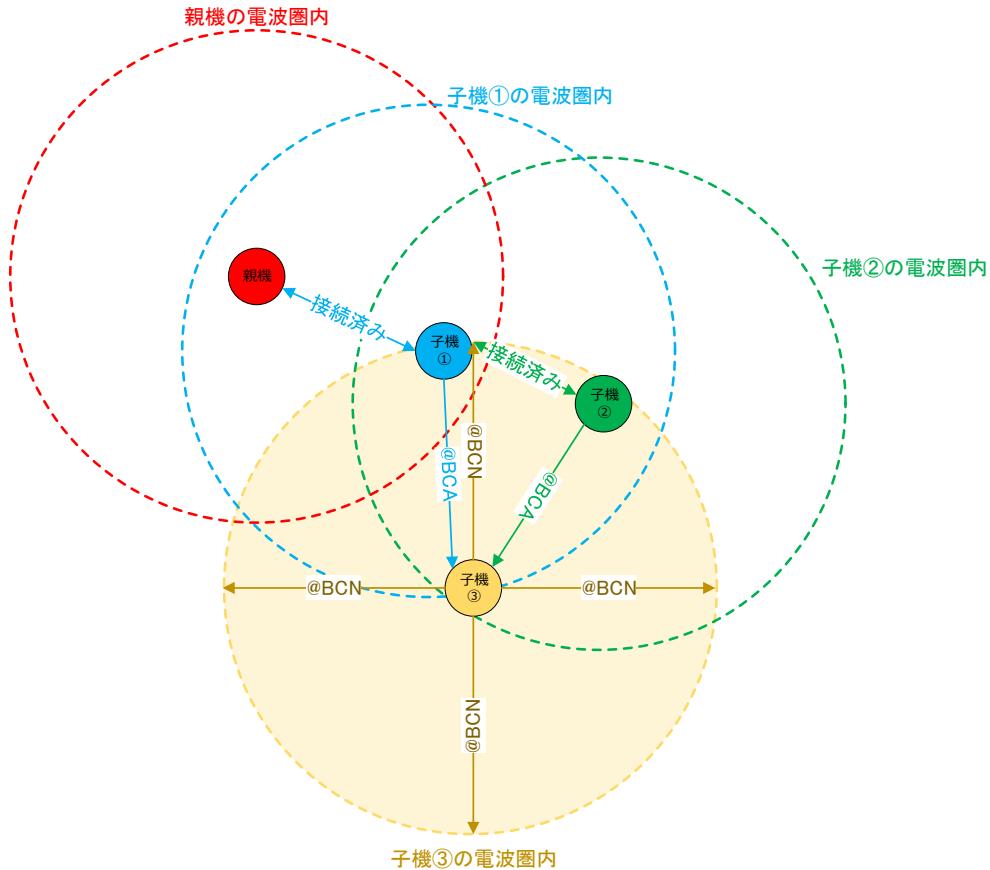
### 説明

左図の例は、子機①からの接続応答(@BCA)に対して、子機②の判断により子機①に対して接続登録(@REG)を送信している状態を表しています。

以上で、子機②は子機①を通してネットワーク参加が完了します。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.11 自動中継接続概念図・子機③の電源ON



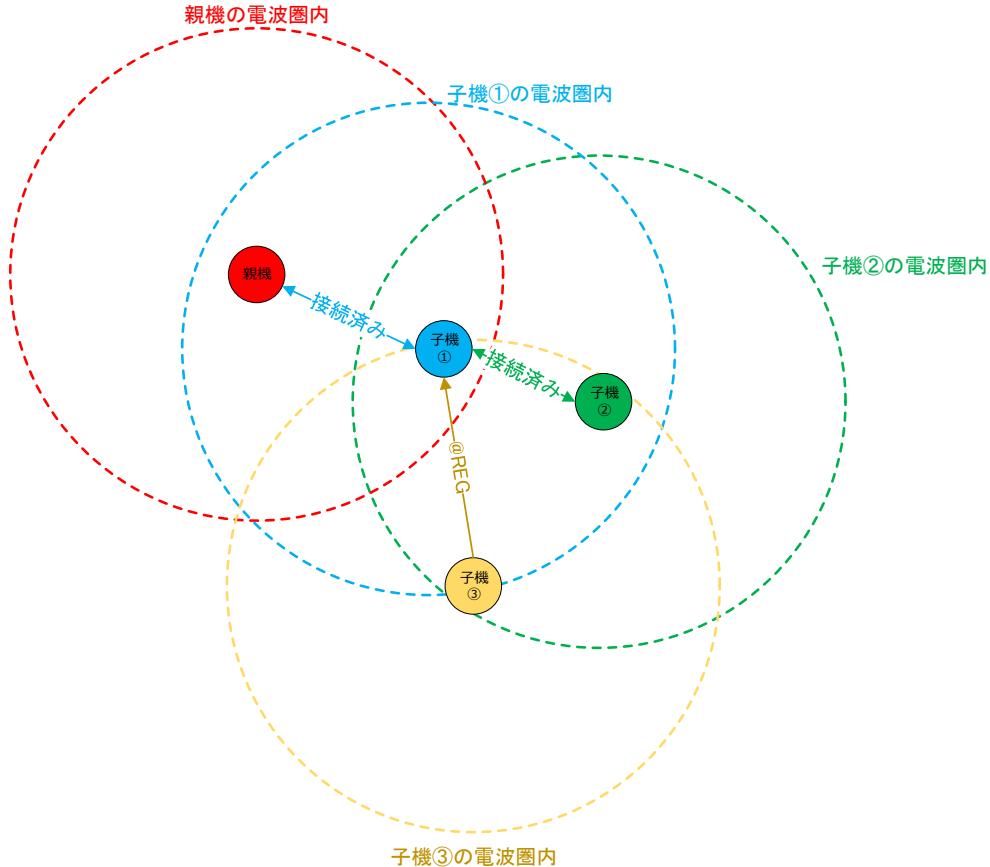
### 説明

左図の例は、子機③から周辺子機に対する、周辺検索(@BCN)が発行されたことを表しています。

子機②からの周辺検索(@BCN)に対して、子機①と子機②が接続応答(@BCA)を返信します。

# 12.SimpleMAC自動中継機能について

## 12.12 自動中継接続概念図・子機③のネットワーク参加完了



### 説明

左図の例は、子機①と子機②からの接続応答(@BCA)に対して、子機③の判断により子機①に対して接続登録(@REG)を送信している状態を表しています。

子機③は、子機①と子機②のネットワーク接続条件から、親機への接続ネスト数が少ない子機①を選択しています。

以上で、子機③は子機①を通してネットワーク参加が完了します。

この時点で、子機①は、子機②と子機③の2台を孫機として接続することになります。

# 13.自動起動時の出力ダンプメッセージ詳細説明

SimpleMACでは、設定で Debug message を有効(ON:TEXT、又は ON:CODE)にしていた場合、ネットワーク設定情報が Dumpイメージでシリアル出力されます。

任意に設定した情報が正しく反映されているか等、ユーザーがチェックする場合にDumpメッセージ内容を確認することが出来ます。

本章では、Dumpメッセージでユーザーが設定可能なパラメータ項目に対する、Dumpメッセージと紐づいている箇所の説明をします。

## 実際のシリアル出力イメージ

```
Setting menu display = CR (wait for 10 seconds)  
  
EEPROM Read Data --->  
0A 00 06 AE 03 12 34 00 01 0D 18 00 00 00 00 00 2B  
7E 15 16 28 AE D2 A6 AB F7 15 88 09 CF 4F 3C 02  
00 00 00 00 01 00 01 00 00 00 13 88 02 00 00 00  
03 E8 00 00 00 00 00 00 0A 00 00 00 0A 01 01 00  
00 0D 36 DF 3D C0 00 01 C2 00 00 00 00 00 00 00  
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00  
00 C3 50 01 00 00 01 01 00 01 FF 77 00 00 13 88  
00 00 13 88 00 00 00 80 01 00 98 54 67 AB 09 00  
F6 FF 03 BA FC 45 00 01 00 01 00 00
```

上記値は、出荷時の標準設定値です。



以下は、説明用に各項目について座標を割り当てた表です。次ページに項目別の説明を記載します。  
黄色くマークされた部分が、ユーザーがシリアル設定メニューで設定した数値です。

座標	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
A	0A	00	06	AE	03	12	34	00	01	0D	18	00	00	00	00	2B
B	7E	15	16	28	AE	D2	A6	AB	F7	15	88	09	CF	4F	3C	02
C	00	00	00	00	01	00	01	00	00	00	13	88	02	00	00	00
D	03	E8	00	00	00	00	00	00	00	0A	00	00	00	0A	01	01 00
E	00	0D	36	DF	3D	C0	00	01	C2	00	00	00	00	00	00	00
F	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
G	00	C3	50	01	00	00	01	01	00	01	FF	77	00	00	13	88
H	00	00	13	88	00	00	00	80	01	00	98	54	67	AB	09	00
I	F6	FF	03	BA	FC	45	00	01	00	01	00	00	00			

※黄マーク以外の値については非公開とさせていただいています。

# 13.自動起動時の出力ダンプメッセージ詳細説明

以下は、説明用に各項目について座標を割り当てた表です。次ページに項目別の説明を記載します。

縦軸	横軸	説明
A	0	変調のFactor設定 (0:SF6 1:SF7 2:SF8 3:SF9 4:SF10 5:SF11 6:SF12)
	1	送信変調帯域幅設定 (0:125kHz 1:250kHz 2:500kHz)
	2	UARTポーレート設定
	4	キャリアセンスリトライ回数 (0:リトライしない 1~9:リトライ回数)
	5,6	PAN-ID
	7,8	自身ID
	9	RF出力電力 (0:20mW[+13dBm] 1:4mW[+6dBm] 2:1mW[+0dBm])
	10	通信チャンネル (24~61)
	11,12	最終宛て先ID
	15	中継有無設定 (0:固定中継 1:自動中継 2:非中継)
C	4	親子モード設定 0:親機 1:子機
	5	ACK要求有無
	6	送信時間総和有無設定処理 (0:処理しない 1:処理する)
	7	送信休止時間設定処理 (0:休止無し 1:2msec 2:50msec 3:送信時間の10倍)
	8,9,10,11	ACK応答タイムアウト
	12	ACK無応答時リトライ送信回数
	13	データ送信モード
C,D	14,15,0,1	タイマー送信モード 送信間隔
D	3	スリープ有効フラグ (0:スリープしない 1:スリープする)
	5,6,7,8	スリープタイマー時間
	13	受信時RSSI出力
	14	PAN-IDアドレス有効
	15	受信時送信元ID出力

縦軸	横軸	説明
E	0	キャリアセンスディセーブル (0:Enable 1:Disable)
	10,11	固定中継用 ホップ数
	12,13	固定中継用 中継1
	14,15	固定中継用 中継2
F	0,1	固定中継用 中継3
	14	FSK送信モードフラグ
F,G	15,0,1,2	FSKビットレート
G	3	RTC LSI<-->LSE 切替フラグ
	4	AES暗号化有無
	6	LORAエラーコーディング
	7	LORAオプティマイズ
	8	低レベルチャンネルノイズフィルタ
	9	改行コード出力有無
	10,11	中継接続RSSI閾値(親機のみ)
H	8	デバッグ出力有無
	9	PANID有効/無効
I	6	受信データ長出力有無
	7	ブロードキャストホッピングモード
	8	受信データ出力コード設定(バイナリorBCD)
	11	FSKホワイトニング有効/無効

# 14.データ送信可能サイズ一覧

920MHz帯の日本の電波法では、一度に連続して送信できる通信時間は4秒以内という制限があります。

そのためSimpleMACでは、ペイロード部（「8.1 エアフォーマット」を参照）にセットできるユーザーデータの最大サイズを以下のように制限をして、制限最大サイズを超えた場合には、エラー処理または、分割送信されるようになっています。

## 送信モード別処理

- Dischargeモード … 最大サイズで分割して送信します
- Frameモード … エラーメッセージを表示し、送信はされません（デバッグ出力ON時）
- ATコマンドモード … エラーコードを返し、送信はされません

		BW 125kHz				BW 250kHz				BW 500kHz			
BW	CDR 4/5	4/6	4/7	4/8	CDR 4/5	4/6	4/7	4/8	CDR 4/5	4/6	4/7	4/8	
SF6	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228
SF7	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228
SF8	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228
SF9	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228	228
SF10	228	228	228	204	228	228	228	228	228	228	228	228	228
SF11	171	139	112	94	228	228	228	228	228	228	228	228	228
SF12	73	53	43	33	193	158	128	108	228	228	228	228	228

# SimpleMAC-std/std3・取り扱い説明書



資料名 : SimpleMAC-std/std3・取り扱い説明書

〒150-6018  
東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイス18F  
株式会社アールエフリンク